

景気動向調査結果

(令和7年7月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 7 年 7 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 7 年 8 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、409 社（製造業 204 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 205 社）で、回答率は 58.4 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

令和7年7月の景気動向

1 総 論

長野県経済は、エネルギー・原材料価格高騰等の影響により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられます。

製造業の業況は、精密など一部は好調であるものの、長引くエネルギー・原材料価格の高騰等により収益率に低下がみられるとともに、自動車関連の受注、生産が低調に推移していることなどから、全体では13期連続でマイナス水準となりました。

非製造業の業況は、全業種の販売価格が前年を上回る水準を維持しています。加えて、計画的なIT投資や堅調な設備投資、安定した観光需要などを背景に、情報サービス業、卸売業、飲食業、宿泊業で業況がプラス水準となっています。一方で、物価高騰に伴う人件費を含めた経費の増加や慢性的な人手不足による受注制限、一部商品の買い控え傾向等から、卸売業を除く全ての業種で業況が悪化したことから、非製造業全体の業況は2期ぶりにマイナス水準となりました。

2 製 造 業

(1) 業界の業況

前年同期（令和6年7月）と比較したD I（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は△12.8となり、前回調査時（令和7年4月）の△16.4より3.6ポイント改善しました。

3か月前（令和7年4月）と比較したD Iは△7.4となり、前回調査時の△7.0より0.4ポイント悪化し、15期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和7年10月）の予想では、D Iは△16.0となり、14期連続のマイナス水準となりました。

【主な業種の動き】

ア 電機・電子では、パソコンは、Windows10サポート終了(10月)による買い替え需要により、受注、生産が好調に推移しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。半導体関連は、AI向けの受注、生産が特に好調であり、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しがみられます。抵抗器・コンデンサ等は、情報通信向けは受注、生産が低調に推移している一方、自動車部品では下げ止まり、産業用機械向けでは底堅く推移しています。モーター等は、産業用途は半導体関係の設備投資が減少等の影響により、受注、生産が低調に推移している一方で、航空機向けでは需要の回復により、順調に推移しています。

イ 一般機械では、工作機械は、半導体向けは受注、生産が低調に推移している一方で、自動車向けは射出成型機で底堅く推移がみられます。金型は、自動車関連向けで受注、生産が順調に推移しています。建設機械は生産、販売が底堅く推移しています。

ウ 精密では、時計は、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、映像関連向けの一部で米国関税措置の影響による駆け込み需要が増えているものの、その他は受注、生産が堅調に推移しています。圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で、受注、生産が低調に推移しています。水道、LPガスメーターは、受注、生産が堅調に推移しています。

エ 自動車部品は、受注、生産が低調に推移しているほか、米国関税措置の影響等により、先行きに不透明感がみられます。

オ 味そは、季節的要因での増減はあるものの、受注、生産が減少しています。酒類は、消費マインドの落ち込みにより、受注、生産が低調に推移しています。飲料は、季節的要因などにより、受注、生産が順調に推移しています。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が27.1%と前回(23.3%)より増加し、「減少」とする企業が37.9%と前回(36.6%)より増加した結果、D Iは前回(△13.3)より改善し、△10.8となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が22.7%と前回(19.4%)より増加し、「減少」とする企業が27.6%と前回(25.4%)より増加した結果、D Iは前回(△6.0)より改善し、△4.9となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業は16.0%、「減少」とする企業が27.5%となった結果、D Iは△11.5となりました。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が26.7%と前回(21.8%)より増加し、「減少」とする企業が38.6%と前回(37.1%)と増加した結果、D Iは前回(△15.3)より改善し、△11.9となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が22.3%と前回(23.4%)より減少し、「減少」とする企業が31.2%と前回(25.9%)より増加した結果、D Iは前回(△2.5)より悪化し、△8.9となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業21.1%、「減少」とする企業が28.6%となった結果、D Iは△7.5となりました。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が39.4%と前回(47.5%)より減少し、「安い」とする企業が3.4%と前回(3.0%)より減少した結果、D Iは前回(44.5)より悪化し、36.0となりました。

3ヵ月前との比較では、「高い」とする企業が14.3%と前回(18.4%)より減少し、「安い」とする企業が3.4%と前回(3.0%)よりやや増加した結果、D Iは前回(15.4)より悪化し、10.9となりました。

3ヵ月後の予想については、「高い」とする企業が15.1%、「安い」とする企業が1.0%となった結果、D Iは14.1となりました。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が10.2%と前回(6.7%)より増加し、「苦しい」とする企業が16.8%と前回(15.9%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△9.2)より改善し、△6.6となりました。

3ヵ月前との比較では、「らく」とする企業が7.1%と前回(6.7%)よりやや増加し、「苦しい」とする企業が13.8%と前回(12.9%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△6.2)よりやや悪化し、△6.7となりました。

3ヵ月後の予想については、「らく」とする企業が5.7%、「苦しい」とする企業が18.0%となった結果、D Iは△12.3となりました。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が22.3%と前回(17.3%)より増加し、「低下」とする企業が39.1%と前回(41.1%)より減少した結果、D Iは前回(△23.8)より改善し、△16.8となりました。

3ヵ月前との比較では、「上昇」とする企業が11.4%と前回(8.5%)よりやや増加し、「低下」とする企業が30.2%と前回(26.4%)より増加した結果、D Iは前回(△17.9)より悪化し、△18.8となりました。

3ヵ月後の予想については、「上昇」とする企業が10.5%、「低下」とする企業が25.5%となった結果、D Iは△15.0となりました。

(7)製造業の業種別動向

電 機 ・ 電 子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは、Windows10 サポート終了(10月)による買い替え需要により、受注、生産が好調に推移しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、A I 向けの受注、生産が特に好調であり、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しがみられます。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、情報通信向けは受注、生産が低調に推移している一方、自動車関連向けでは下げ止まり、産業用機械向けでは底堅く推移しています。

(モーター等) モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資が減少等の影響により、受注、生産が低調に推移している一方で、航空機向け需要の回復により、順調に推移しています。

(そ の 他) 車載部品は、欧州のEV方針変換等により受注、生産が弱含んでいます。

一 般 機 械

(工 作 機 械) 工作機械は、半導体向けは受注、生産が低調に推移している一方、自動車向けは射出成型機で底堅く推移がみられます。

(金 型) 金型は、自動車関連向けで受注、生産が順調に推移しています。

(建 設 機 械) 建設機械は生産、販売が底堅く推移しています。

(農業用機械等) 農業用機械等は、酪農・畜産関係向けの需要が減少しており、低調に推移しています。

精 密 (時 計)	時計は、受注、生産が好調に推移しています。
(レ ン ズ)	レンズは、映像関連向けの一部で米国関税措置の影響による駆け込み需要が増えているものの、その他は受注、生産が堅調に推移しています。
(計 器)	圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で、受注、生産に低調に推移しています。水道、L P ガスメーターは、受注、生産が堅調に推移しています。
自 動 車 部 品	自動車部品は、受注、生産が低調に推移しているほか、米国関税措置の影響等により、先行きに不透明感がみられます。
食 料 品	
(味 そ)	味そは、季節的要因での増減はあるものの、受注、生産が減少しています。
(酒 類)	酒類は、消費マインドの落ち込みにより、受注、生産が低調に推移しています。
(飲 料)	飲料は、季節的要因などにより、受注、生産が順調に推移しています。
繊 維 ・ 衣 服	繊維・衣服は、季節的要因により、受注、生産が減少しています。
紙 ・ パ ル プ	ダンボールは、季節的要因により、受注、生産が増加しています。
印 刷	印刷は、特定業界からの需要増加が一部みられますが、低調に推移しています。

3 非製造業

業界の業況

前年同期（令和6年7月）と比較したD Iは $\Delta 15.8$ となり、前回調査時（令和7年4月）の1.5より17.3ポイント悪化し、2期ぶりのマイナス水準となりました。

3か月前（令和7年4月）と比較したD Iも $\Delta 5.6$ となり、前回調査時の3.6より9.2ポイント悪化し、2期ぶりのマイナス水準となりました。

また、3か月後（令和7年10月）の予想D Iは $\Delta 25.7$ と、現状からの悪化が見込まれています。

〔主な業種の動き〕

ア 建設業

公共工事や企業の建設投資が底堅い一方、新設住宅着工戸数は低調であり、技術者の人手不足等に伴い受注量を制限せざるを得ない状況もあることから、売上高D Iや受注件数D Iが悪化し、マイナス水準となりました。これに伴い、業況D Iについても $\Delta 43.6$ と前回（ $\Delta 12.5$ ）から大幅に悪化し、引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは $\Delta 37.8$ と、現状からの更なる悪化が見込まれています。

イ 情報サービス業

情報システムの刷新、更新等の計画的なI T投資が見られる一方、従業員不足による受注機会の損失等により、客数D Iは悪化し0.0となりましたが、販売価格は上昇傾向にあることから、売上高D Iは悪化したもののプラス水準となりました。以上から、業況D Iは11.1と前回（23.1）より悪化したものの、4期連続でプラス水準を維持しました。

3か月後の業況D Iは $\Delta 12.5$ と、現状からの悪化が見込まれています。

ウ 小売業

販売価格の引上げ等により食料品小売業や自動車販売業の売上高が好調な一方、価格高騰の中で消費者の節約志向は高まり、一部の商品では買い控えもあることから、衣料品専門店、その他小売店における売上高D Iがマイナス水準となり、小売業全体の売上高D Iも悪化し、マイナス水準となりました。加えて、一部では猛暑による来店客数の減などもあり、客数D Iもマイナス水準となったことから、業況D Iについても $\Delta 20.9$ と前回（ $\Delta 5.0$ ）より悪化し、8期連続のマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは、 $\Delta 26.4$ と、現状からの更なる悪化が見込まれています。

エ 卸売業

製造業を中心とした堅調な設備投資による建設・電設資材の需要増加や価格転嫁の促進等により、卸売業全体として客数D Iと売上高D Iが改善し、プラス水準となりました。これに伴い、業況D Iは14.3と前回（ $\Delta 15.0$ ）より改善し、2期ぶりにプラス水準となりました。

3か月後の業況D Iは $\Delta 14.3$ と、現状からの悪化が見込まれています。

オ 飲食業

法人需要の減少や人手不足による営業制限、猛暑による外出控え等により、客数D Iが大幅に悪化

し、マイナス水準となりましたが、価格転嫁により売上高D Iは改善し引き続きプラス水準となったことから、業況D Iは15.0と前回（31.8）より悪化したものの、4期連続のプラス水準を維持しました。

3か月後の業況D Iは、△15.8と、現状からの悪化が見込まれています。

カ 宿泊業

雇用確保のための賃上げや人手不足による外注費、光熱費等の経費増により、収益率D Iは大幅に悪化し、6期ぶりのマイナス水準となりました。一方、国内旅行者、インバウンドともに堅調な観光需要から、客数D Iは改善しつつプラス水準を維持し、売上高D Iについても同様の推移となりました。以上から、業況D Iは18.2とプラス水準を維持したものの、前回（35.7）から悪化しました。

3か月後の業況D Iは△20.0と、現状からの悪化が見込まれています。

景気動向調査集計結果

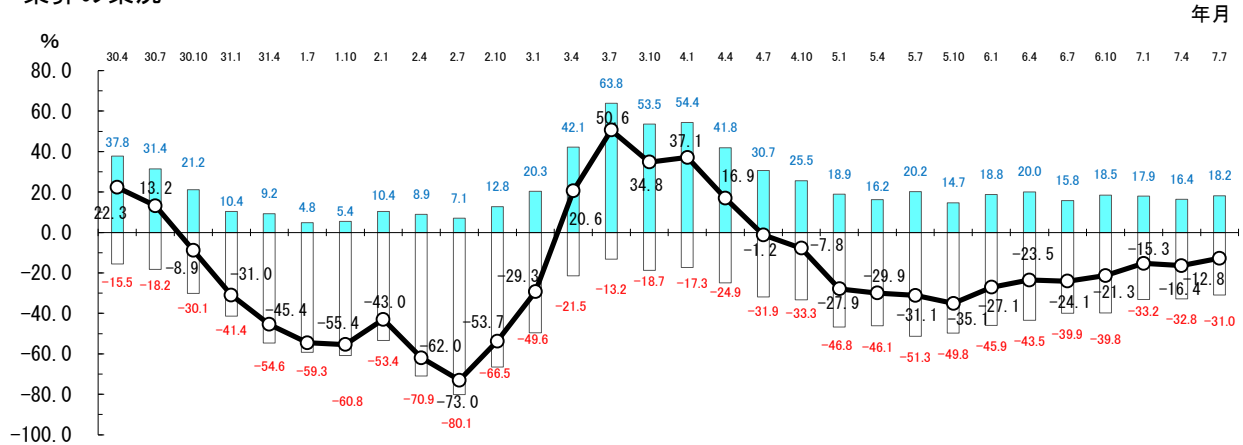
(注)棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。

折れ線グラフ（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

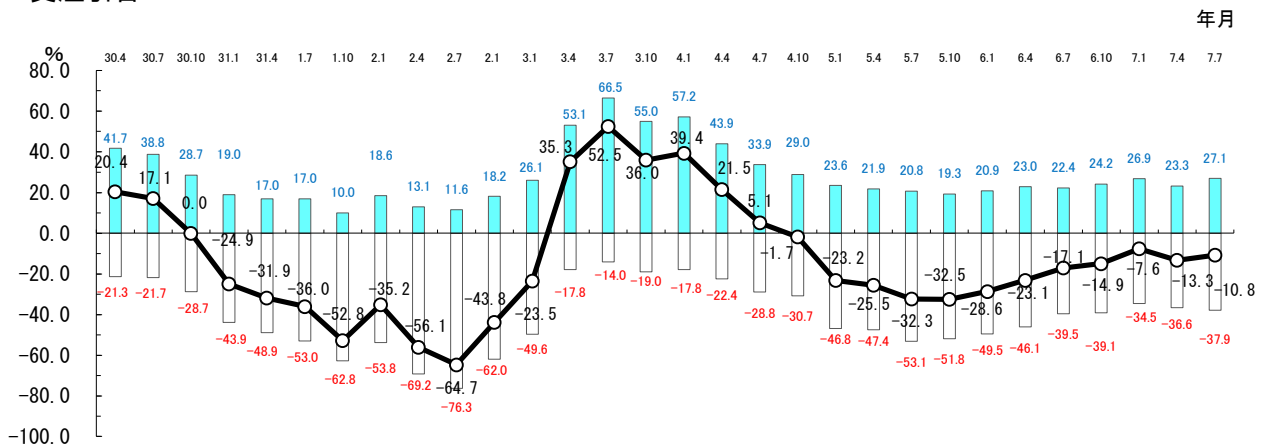
1 製造業

（１）前年同期に比べて

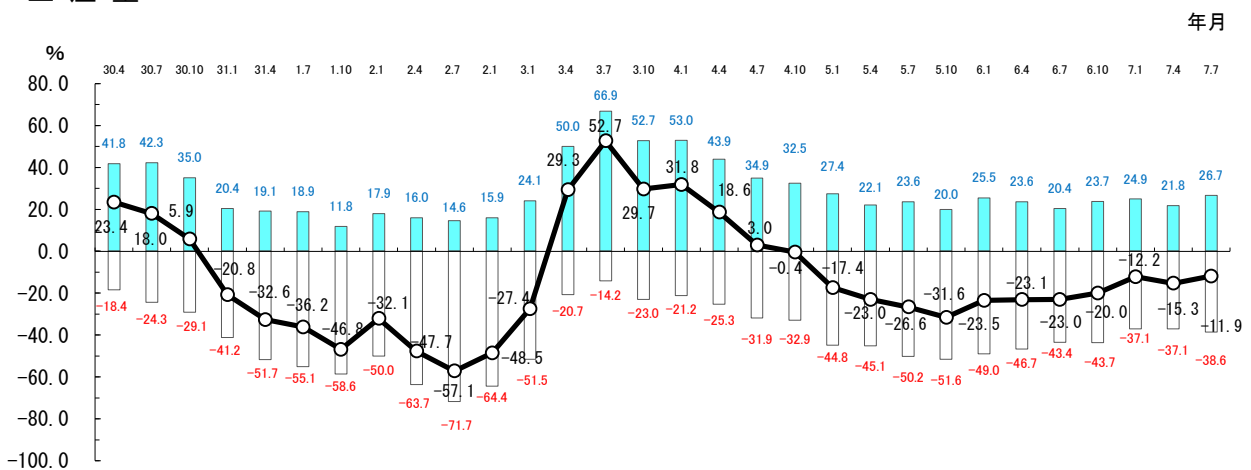
業界の業況



受注引合

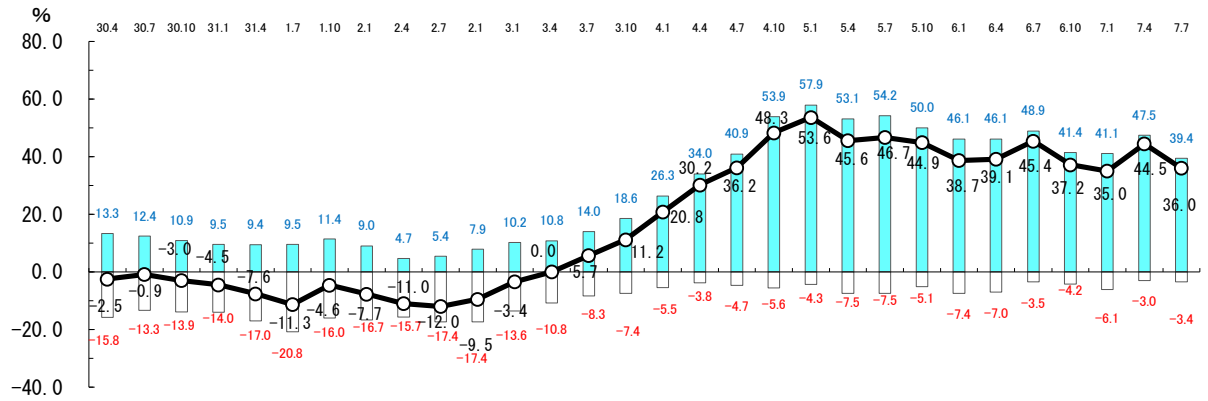


生産量



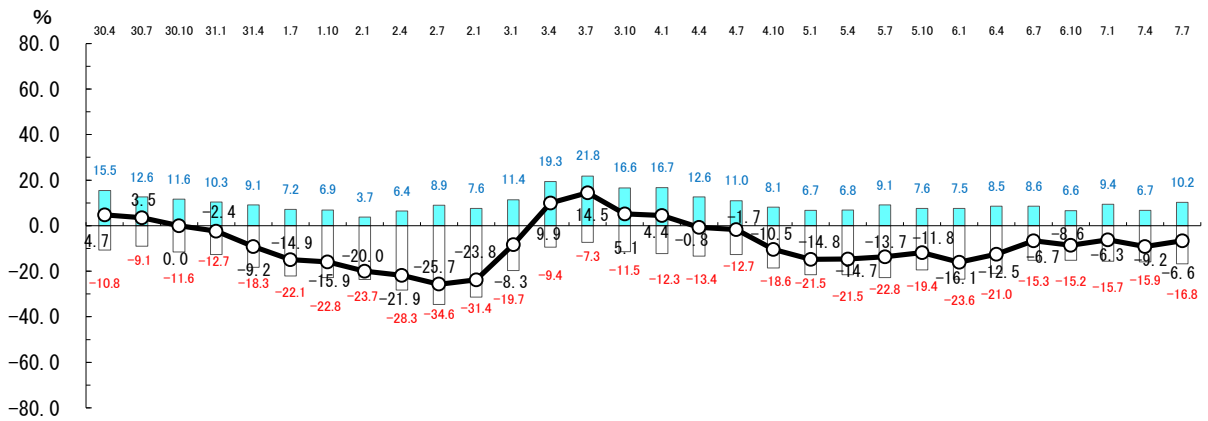
製品販売価格

年月



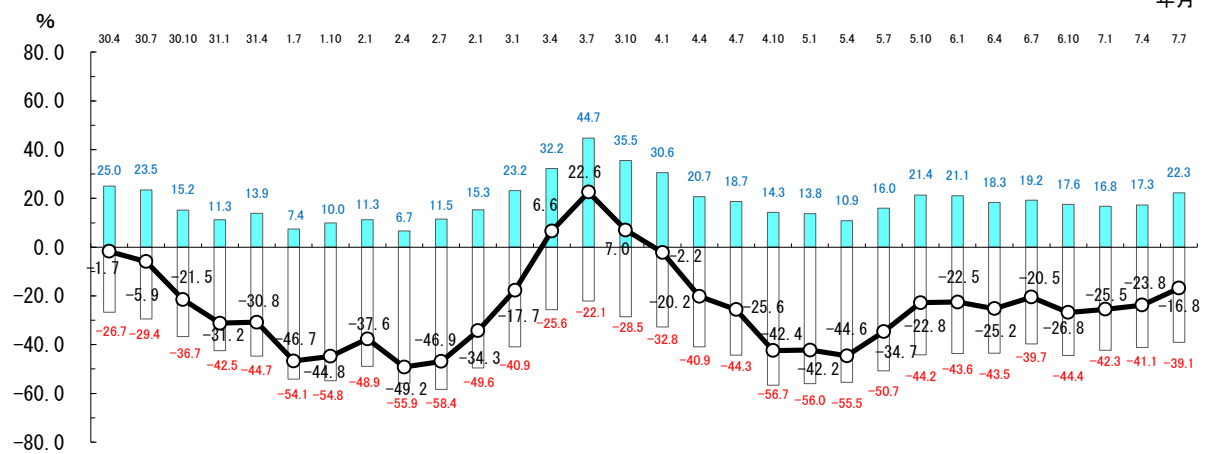
資金繰り

年月



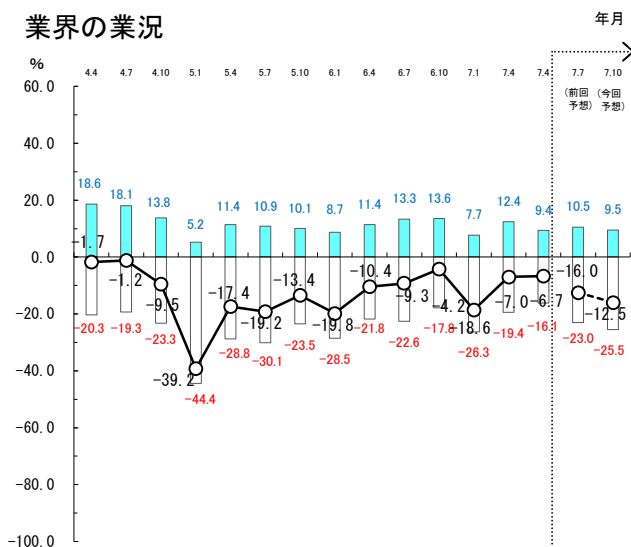
収益率

年月

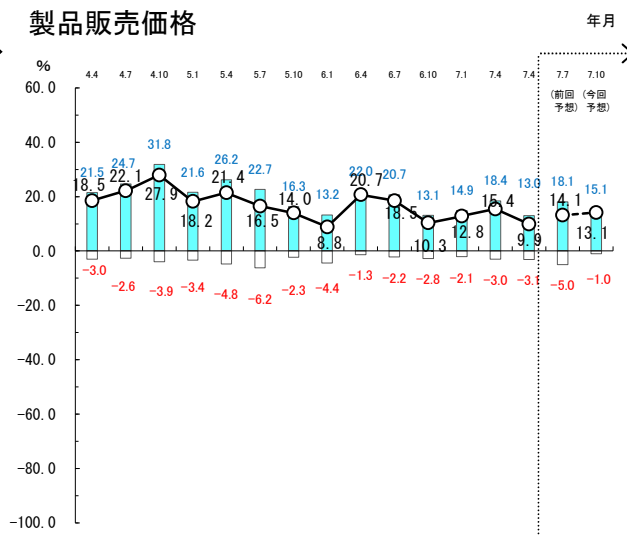


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

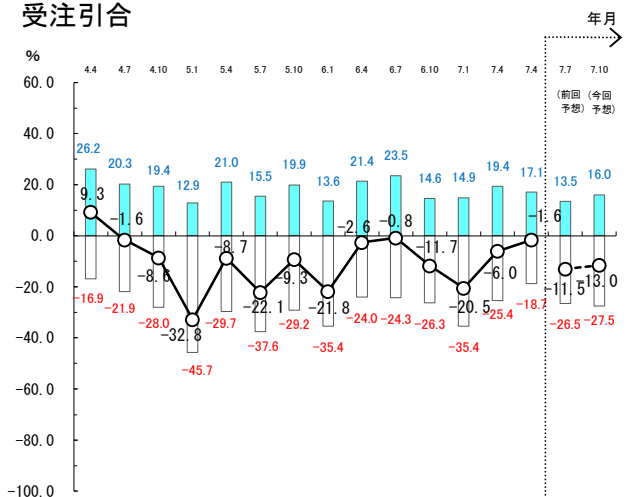
業界の業況



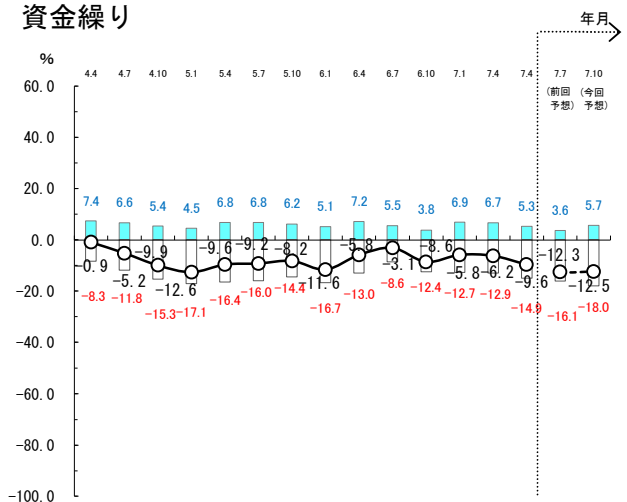
製品販売価格



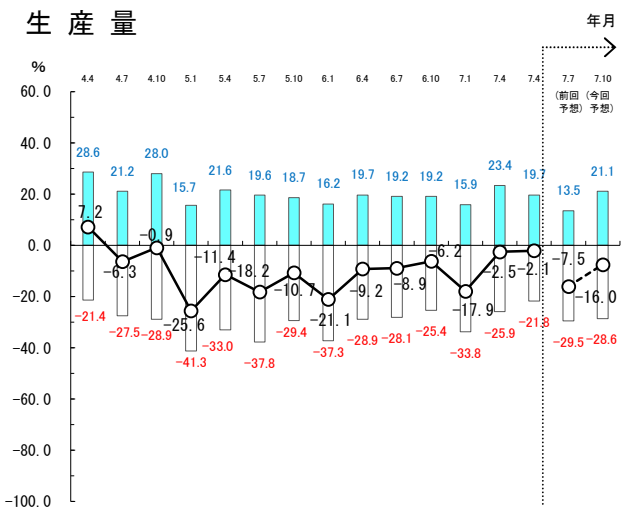
受注引合



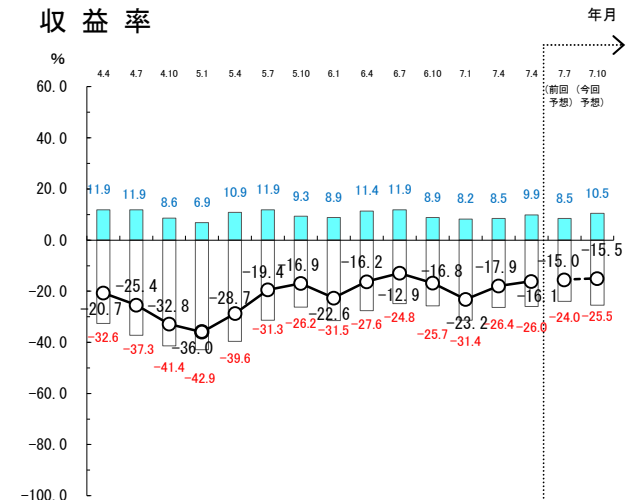
資金繰り



生産量



収益率

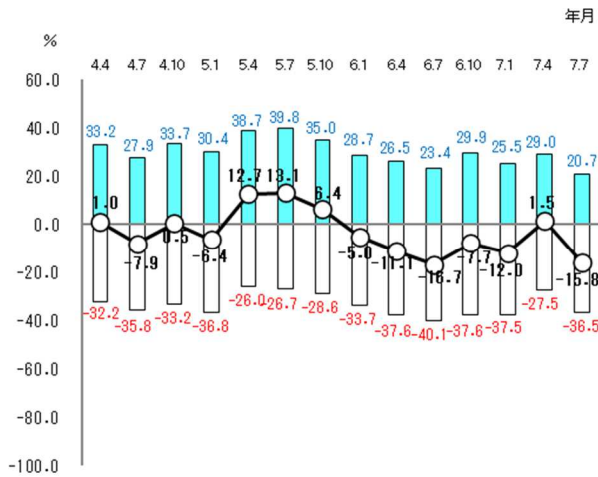


2 非製造業

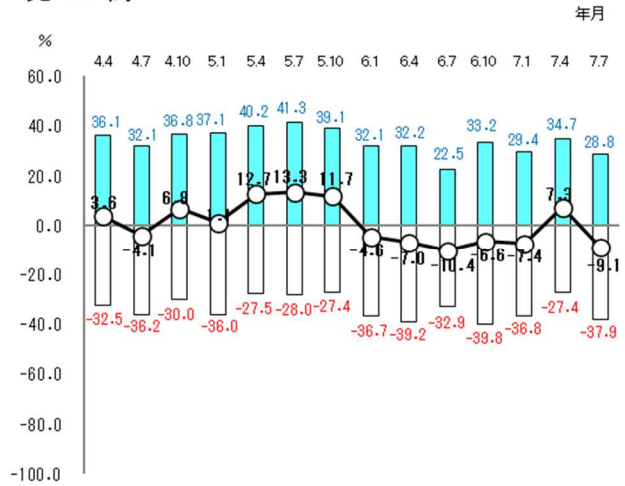
非製造業全体

(1) 前年同期に比べて

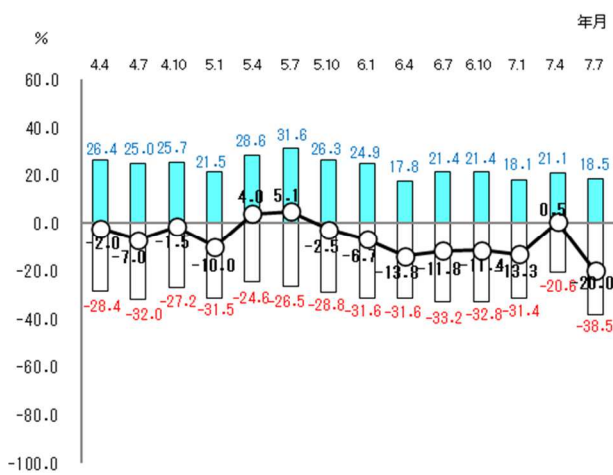
業況



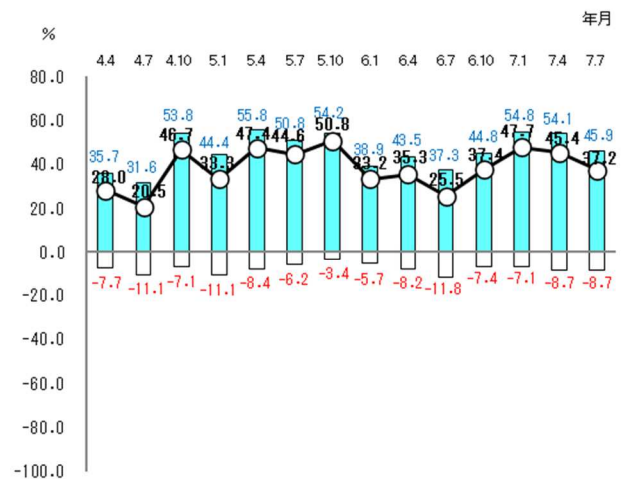
売上高



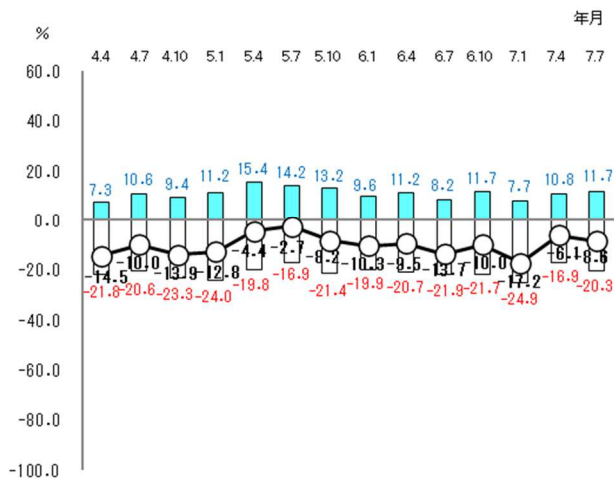
客数 (受注件数・取引先数)



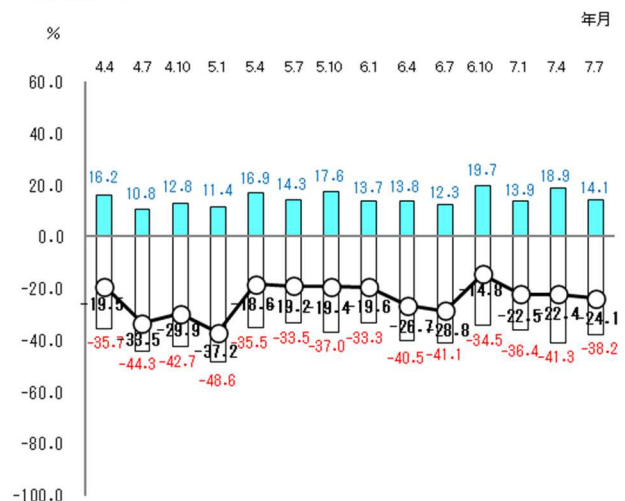
販売価格



資金繰り

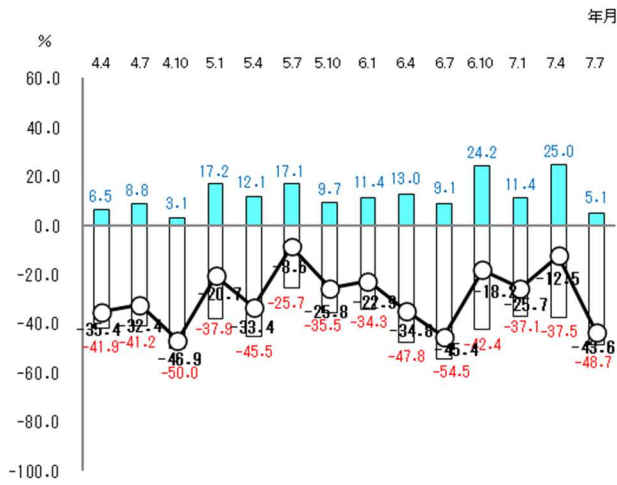


収益率

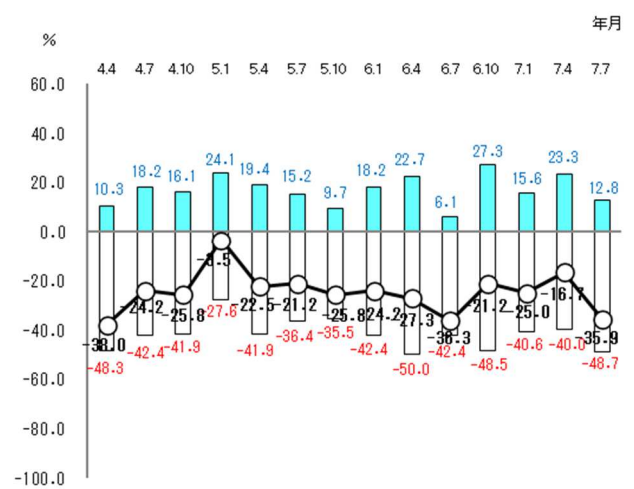


ア 建設業

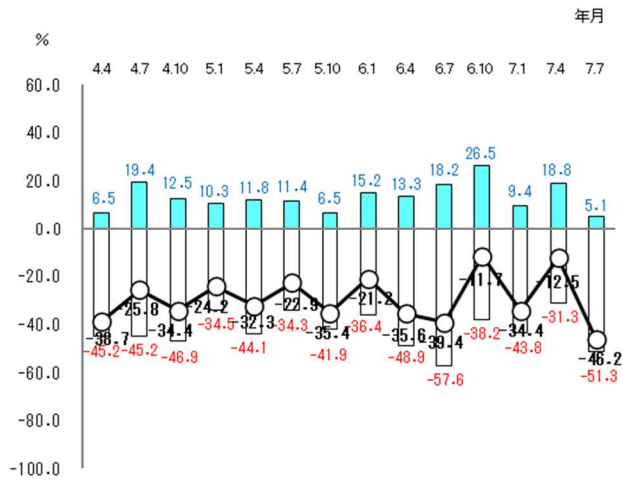
業況



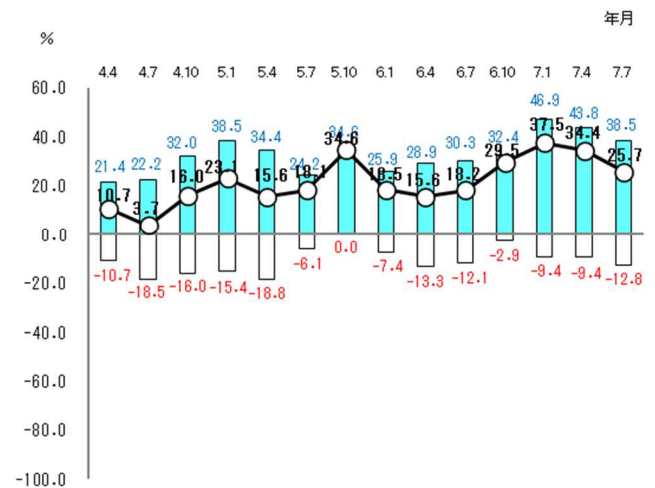
売上高



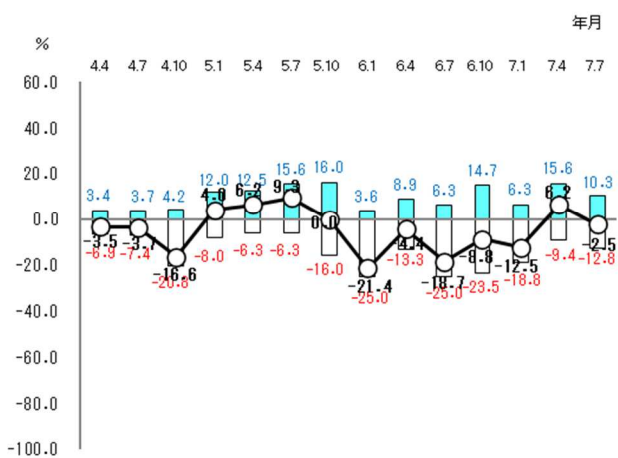
客数 (受注件数)



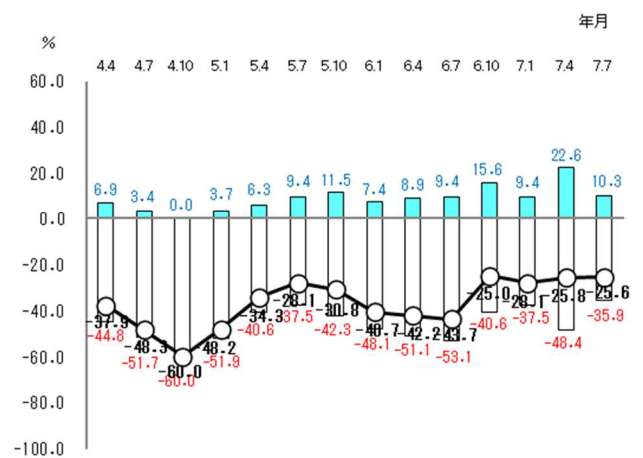
販売価格



資金繰り

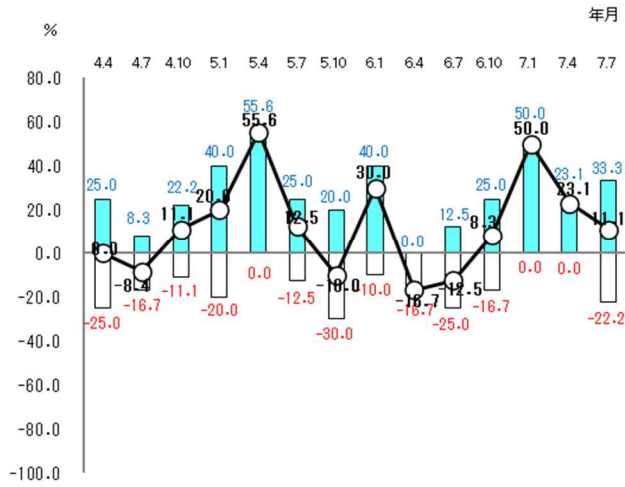


収益率

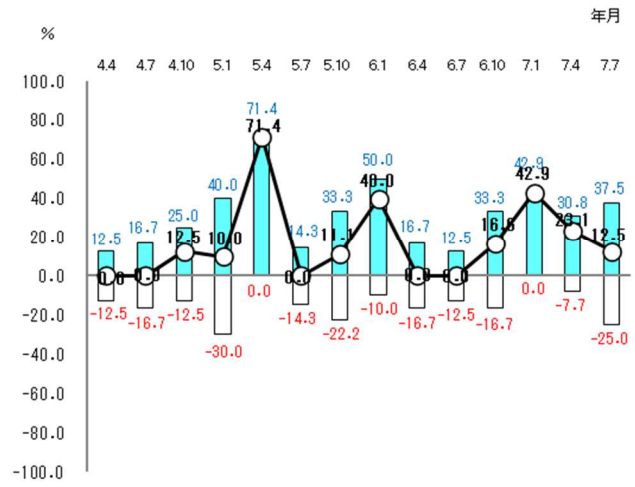


イ 情報サービス業

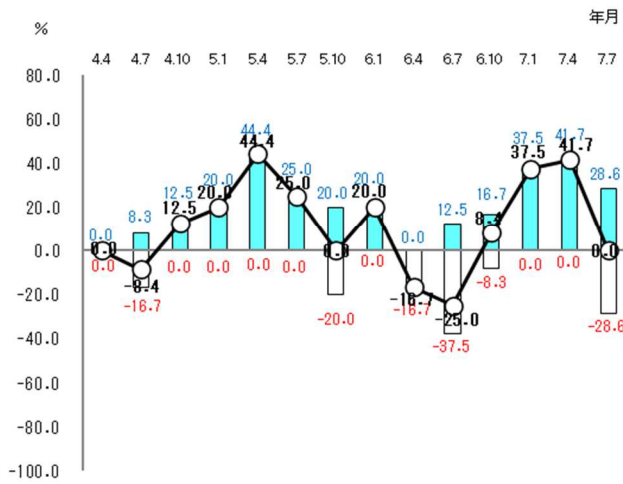
業況



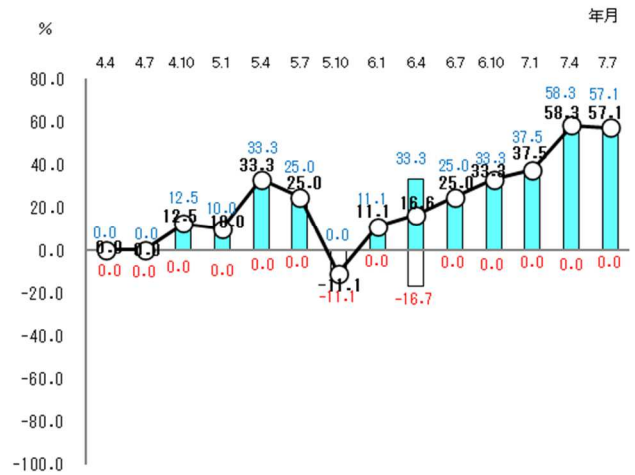
売上高



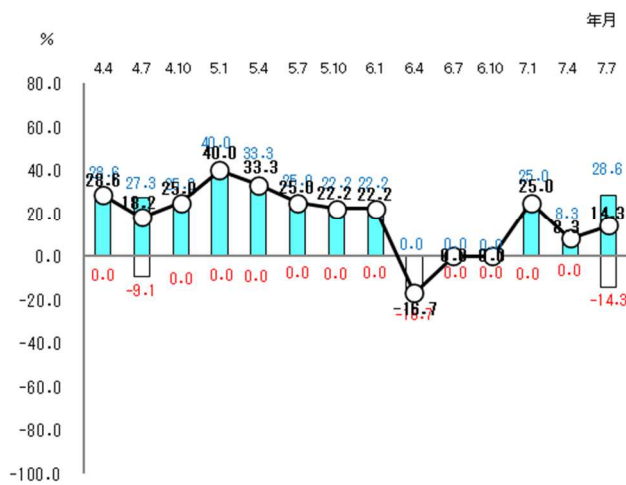
客数 (受注件数)



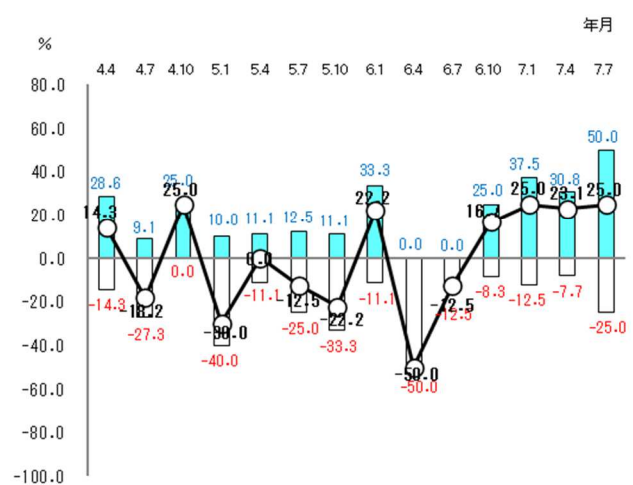
販売価格



資金繰り

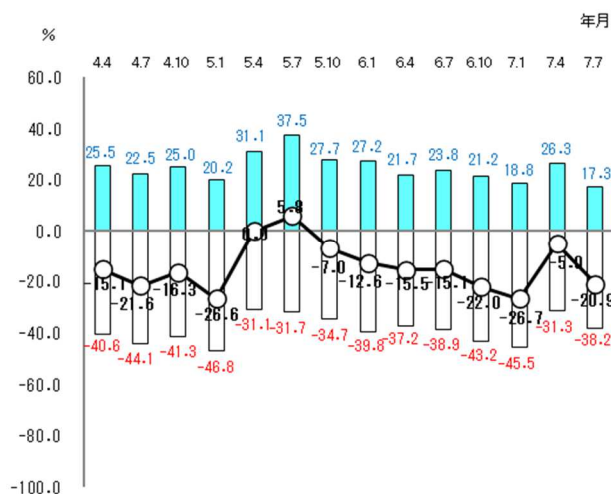


収益率

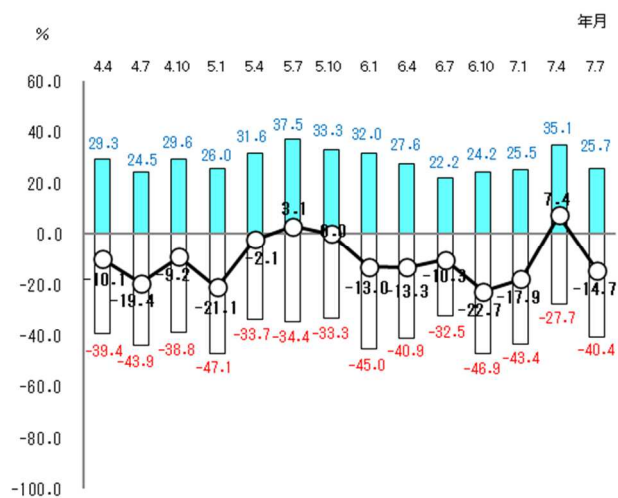


ウ 小売業

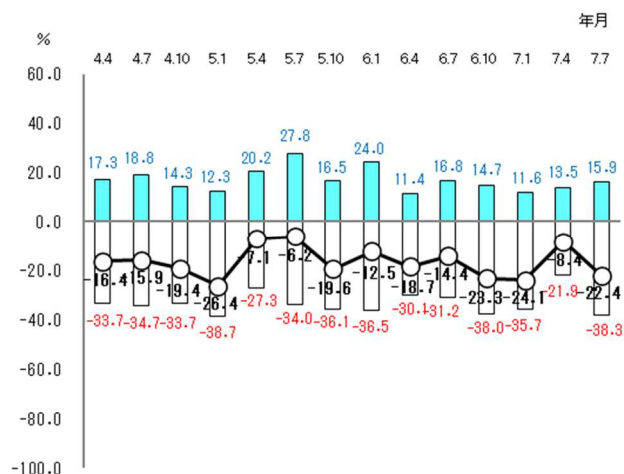
業況



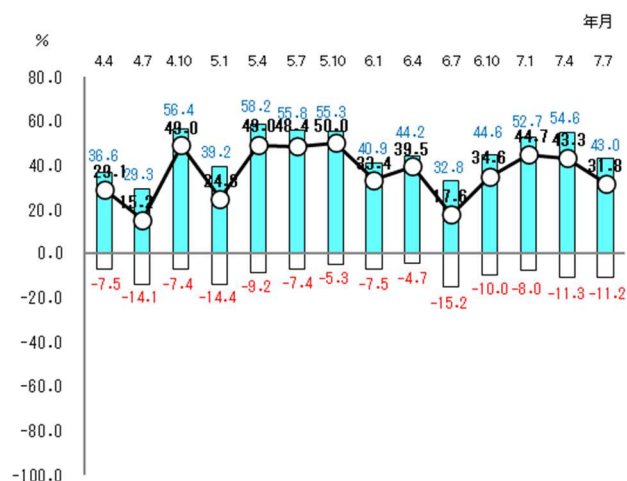
売上高



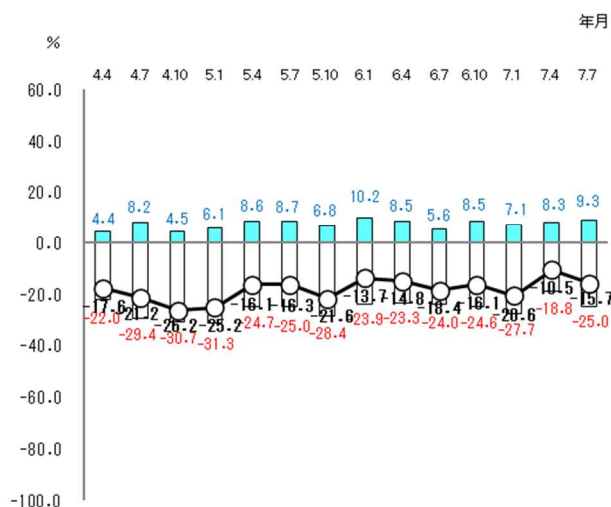
客数



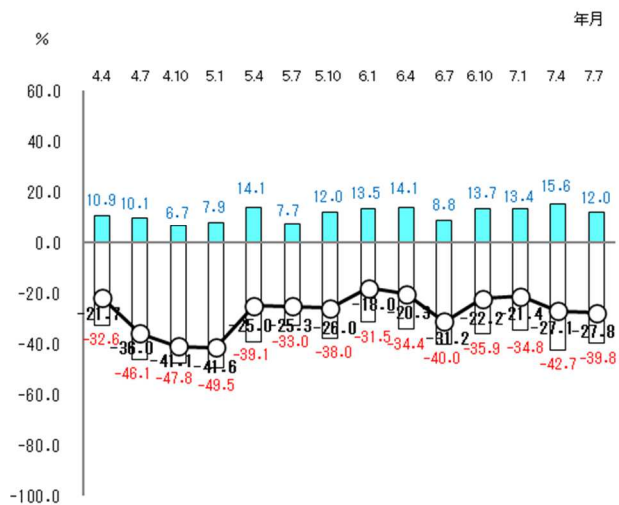
販売価格



資金繰り

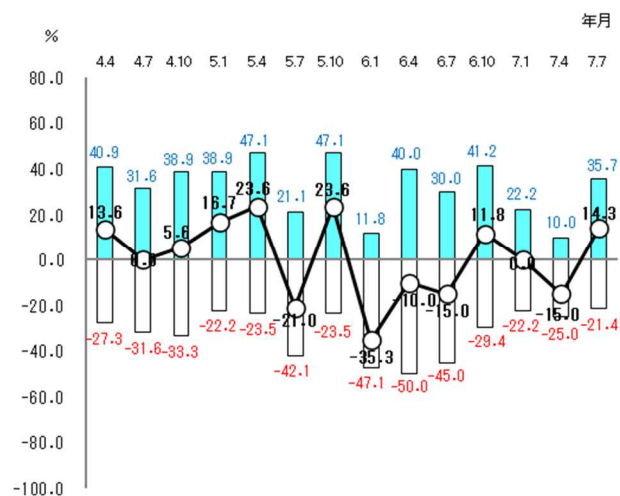


収益率

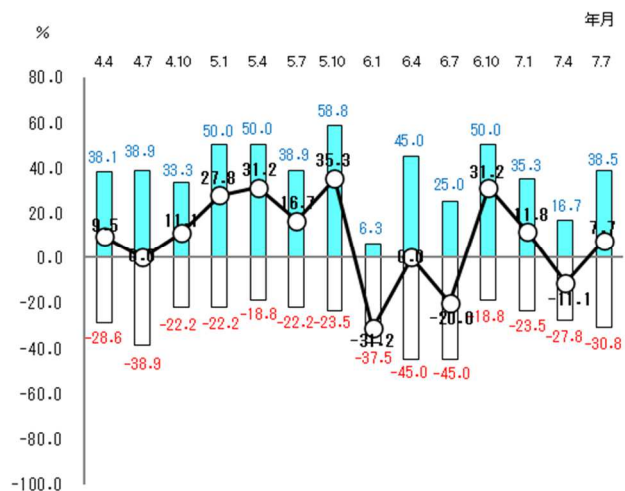


工 卸売業

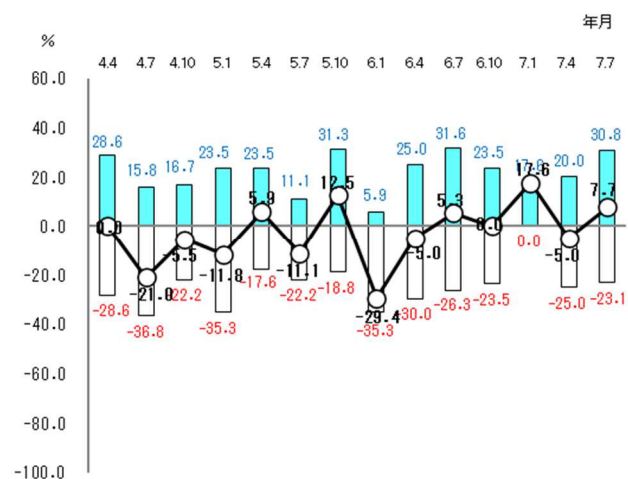
業況



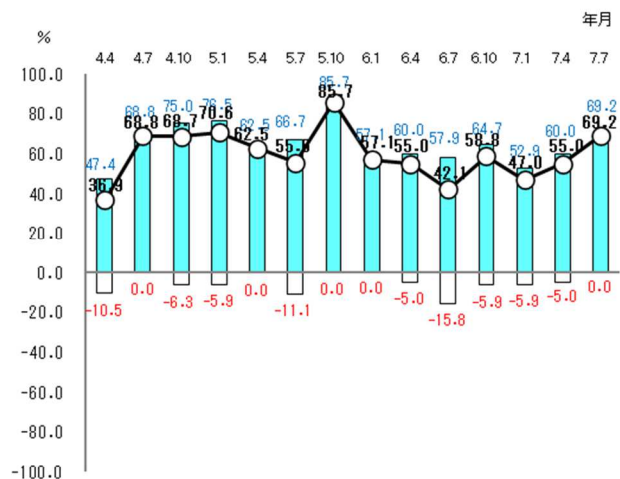
売上高



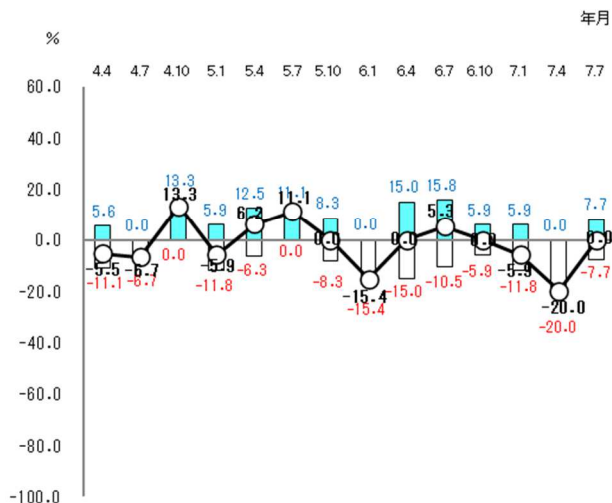
客数（取引先数）



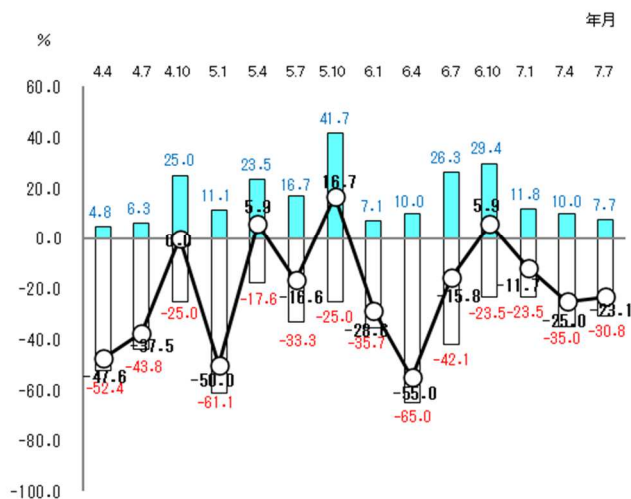
販売価格



資金繰り

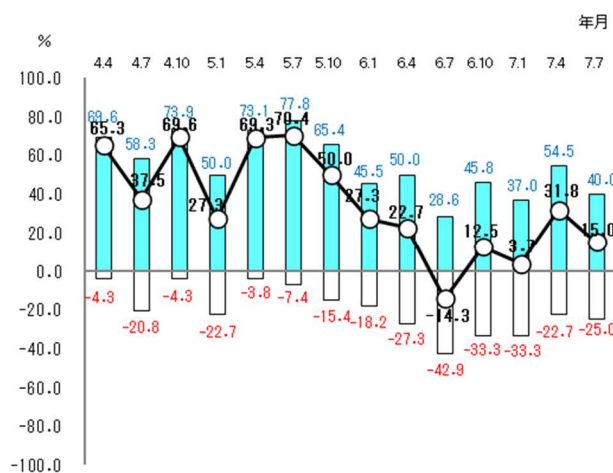


収益率

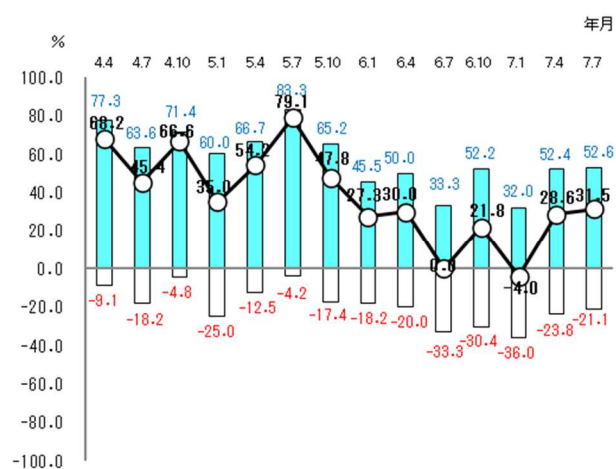


才 飲食業

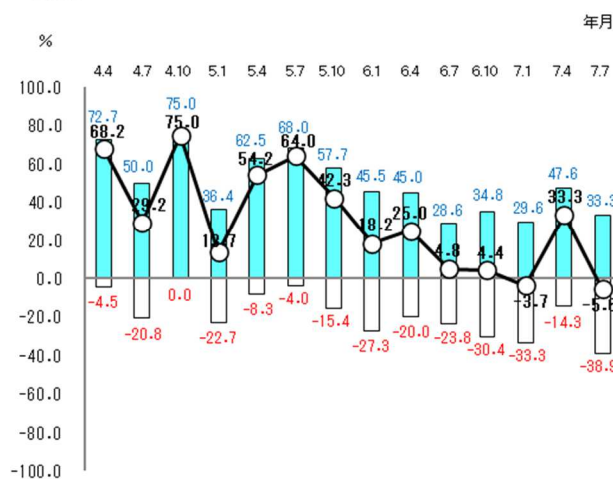
業況



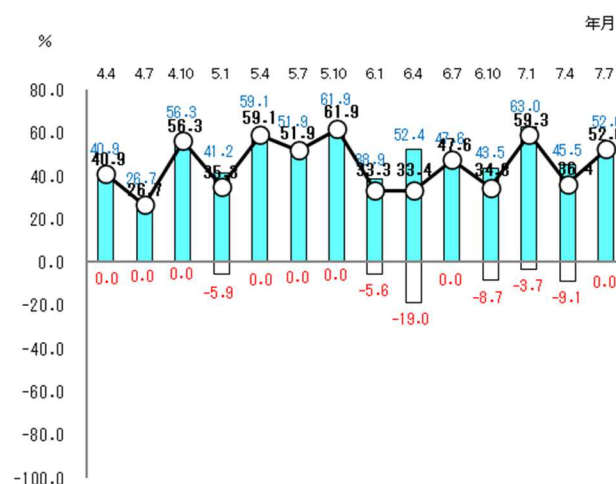
売上高



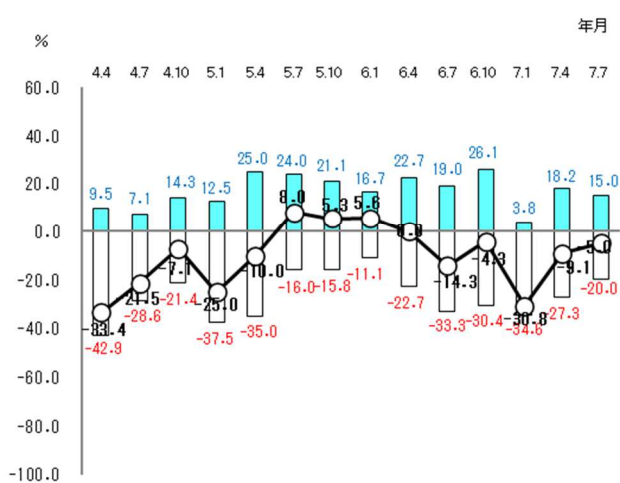
客数



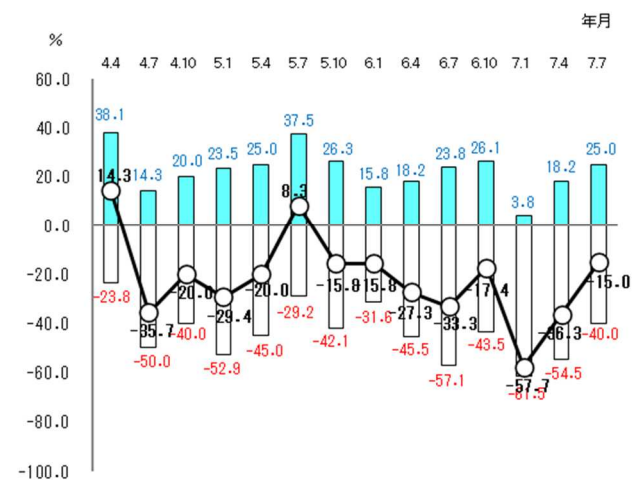
販売価格



資金繰り

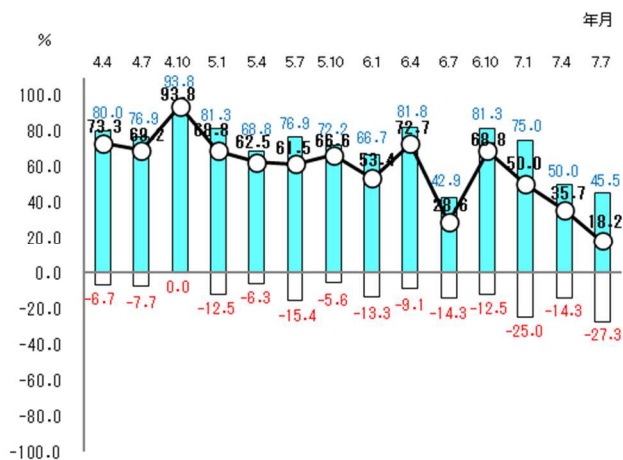


収益率

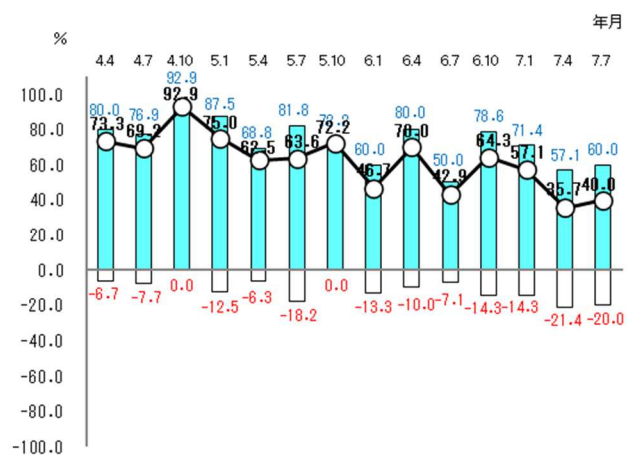


力 宿泊業

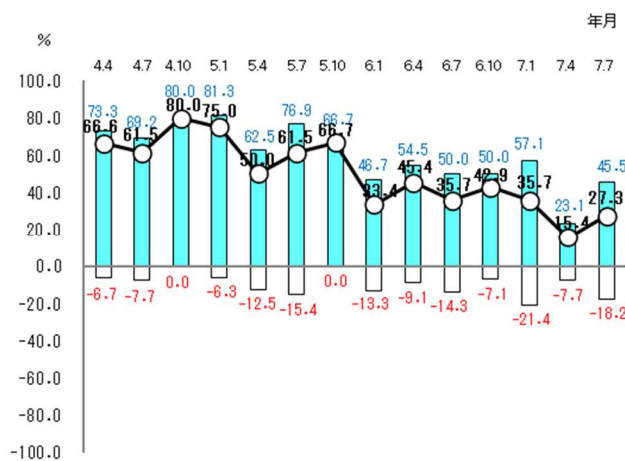
業況



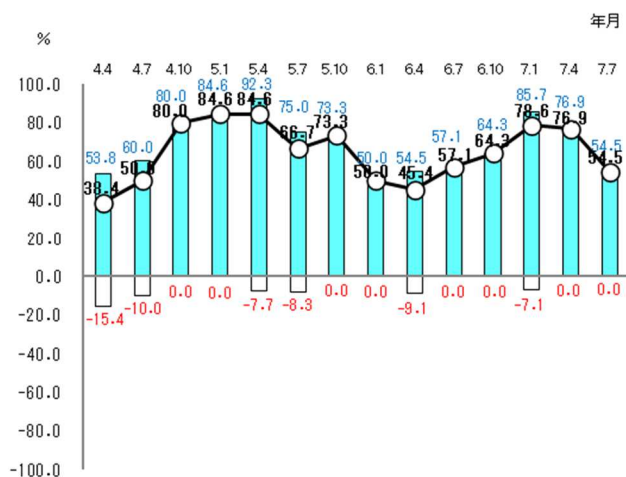
売上高



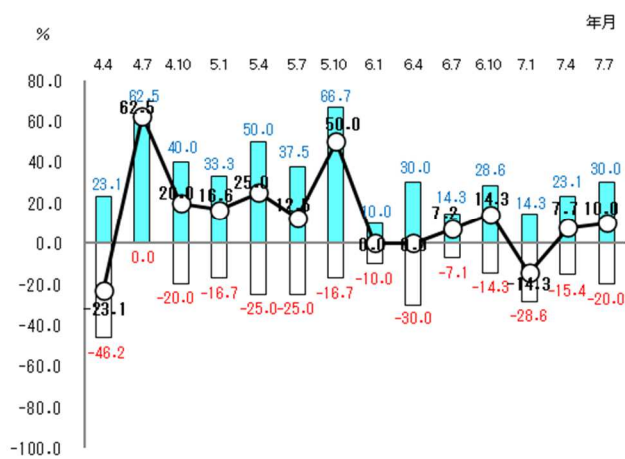
客数



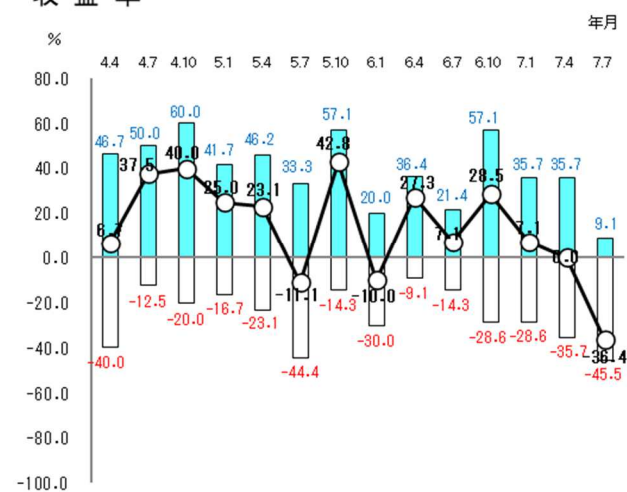
販売価格



資金繰り

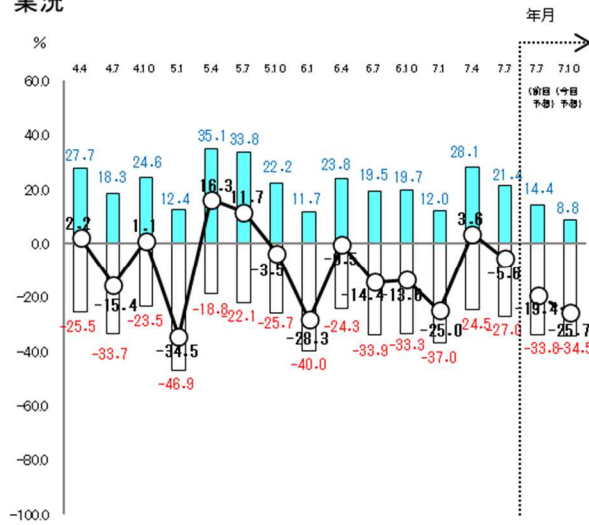


収益率

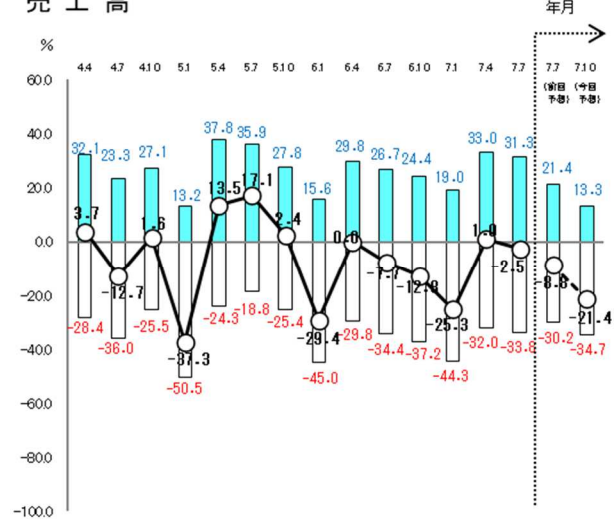


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想
非製造業全体

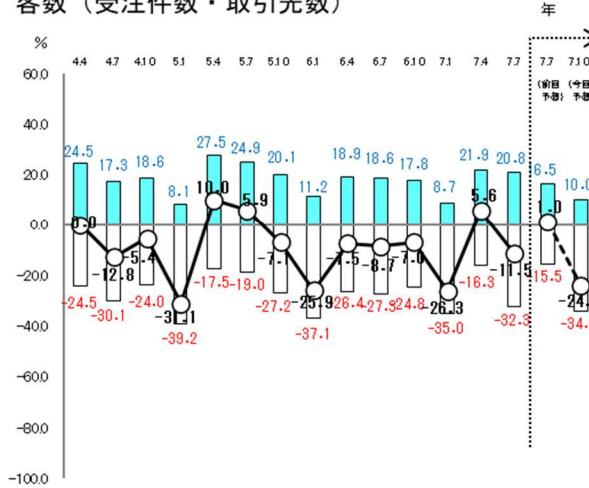
業況



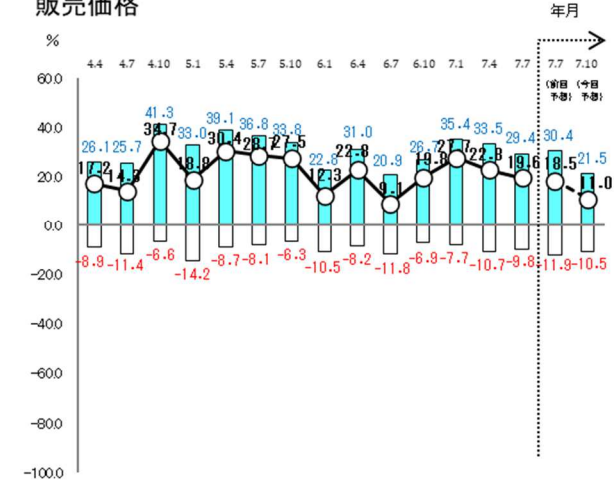
売上高



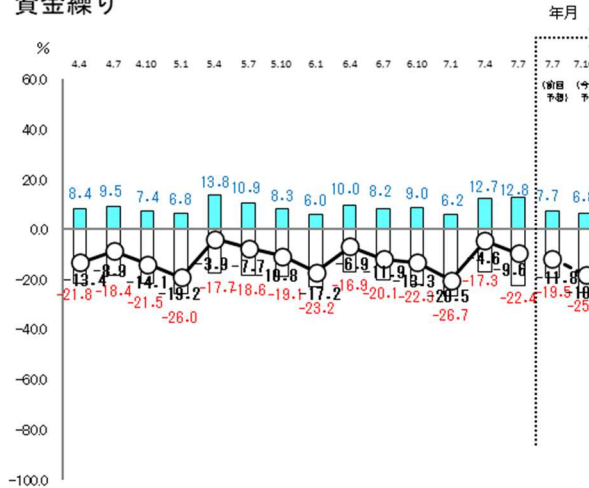
客数 (受注件数・取引先数)



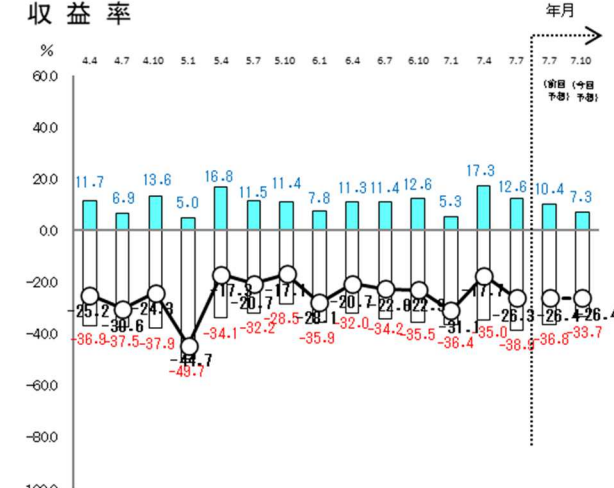
販売価格



資金繰り

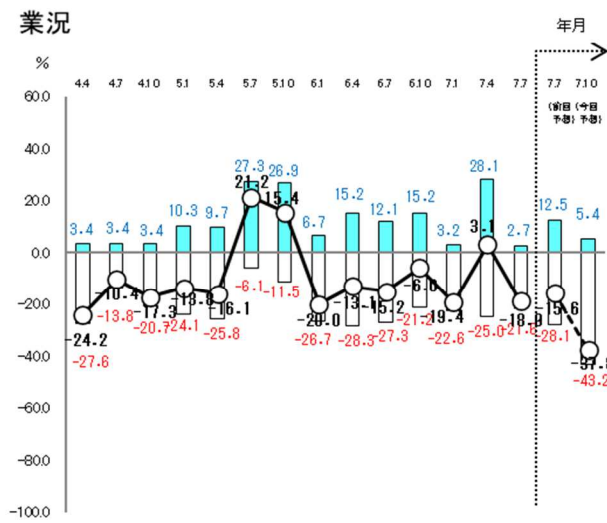


収益率

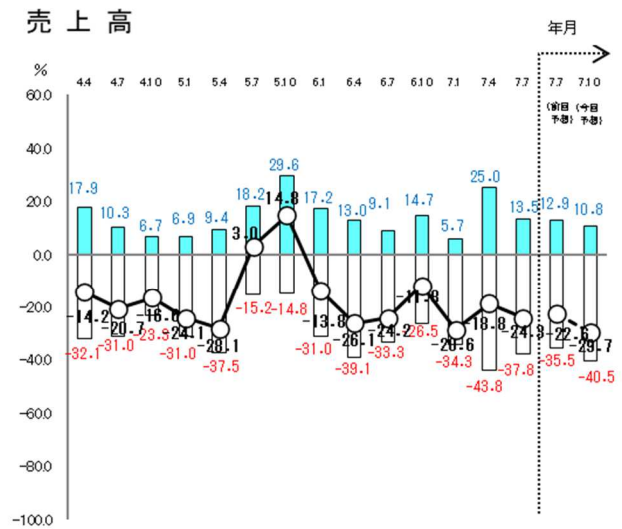


ア 建設業

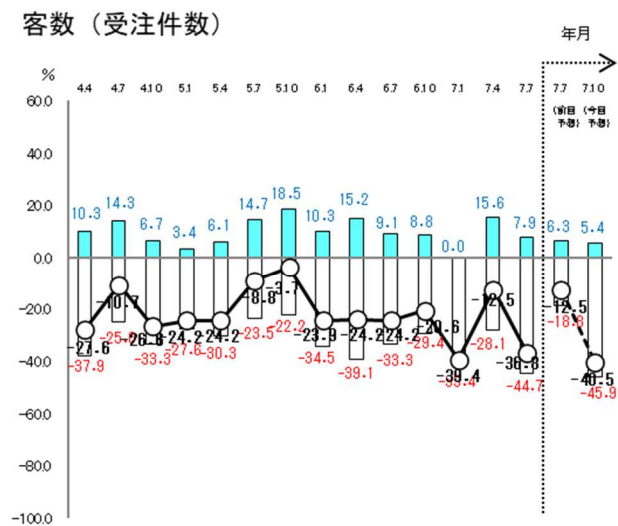
業況



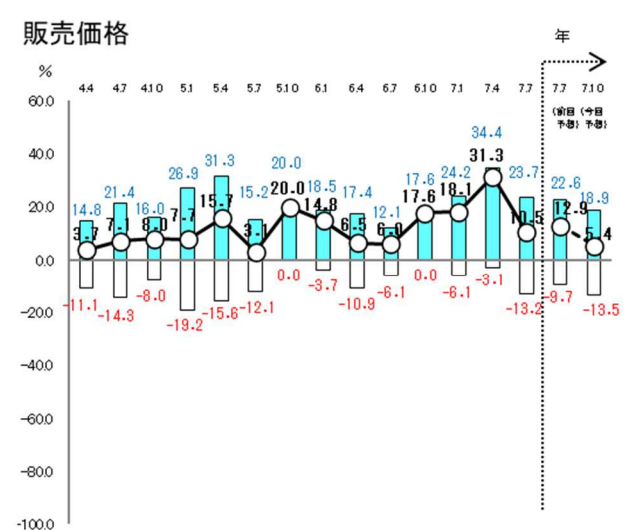
売上高



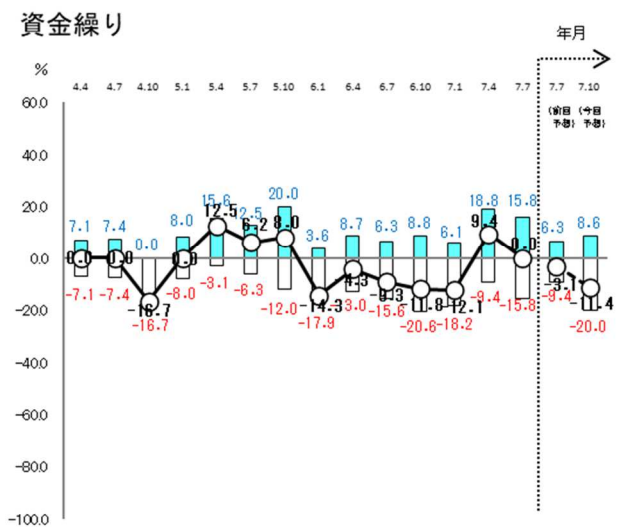
客数 (受注件数)



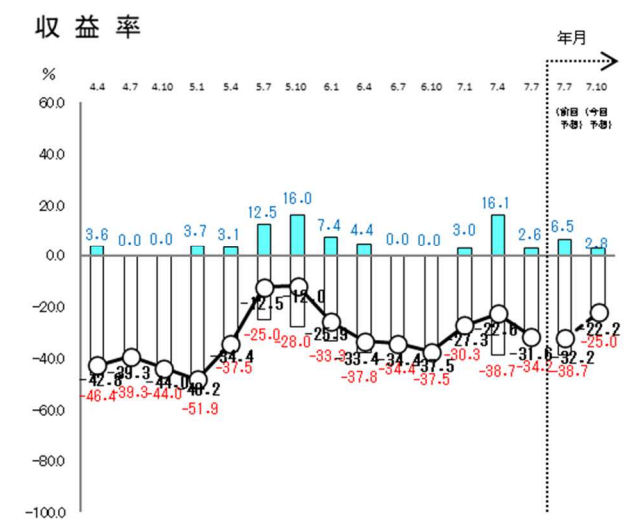
販売価格



資金繰り

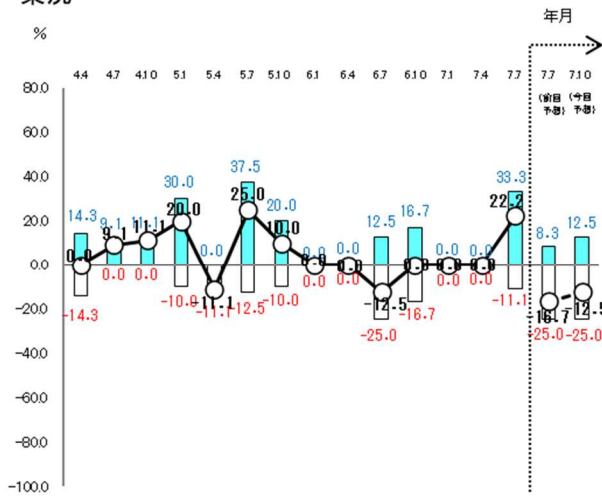


収益率

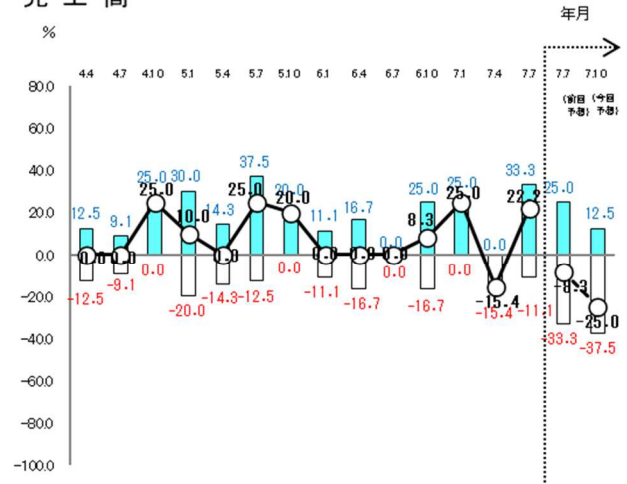


イ 情報サービス業

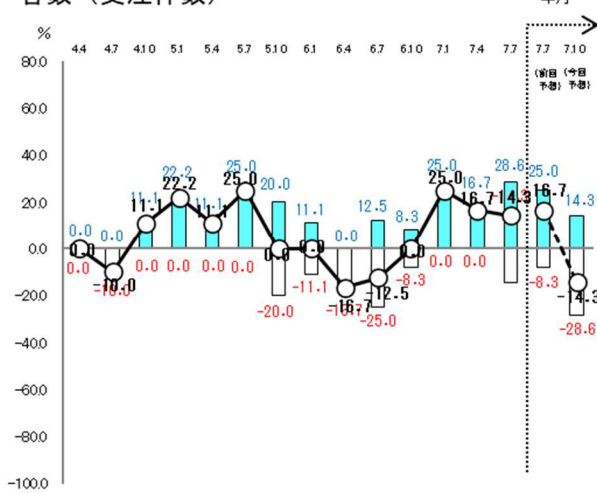
業況



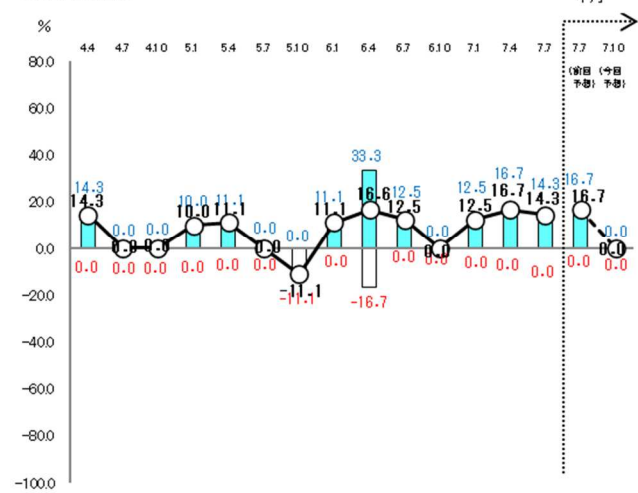
売上高



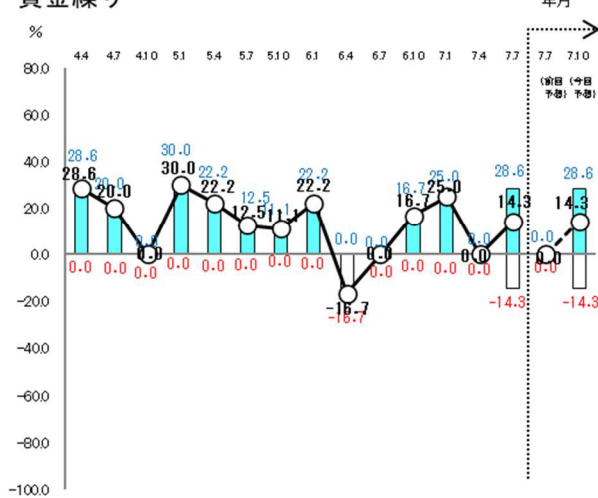
客数 (受注件数)



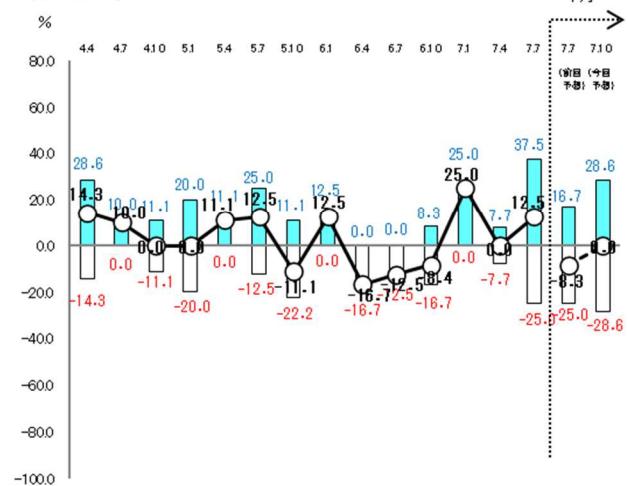
販売価格



資金繰り

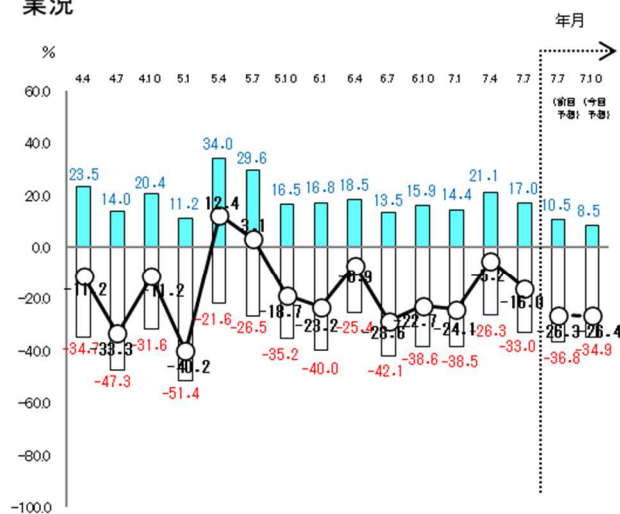


収益率

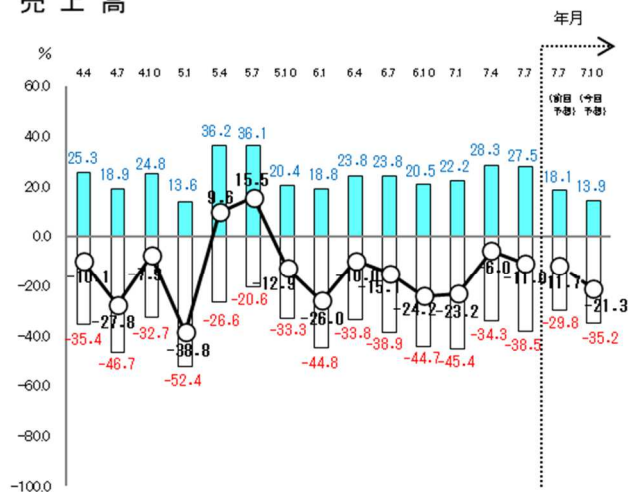


ウ 小売業

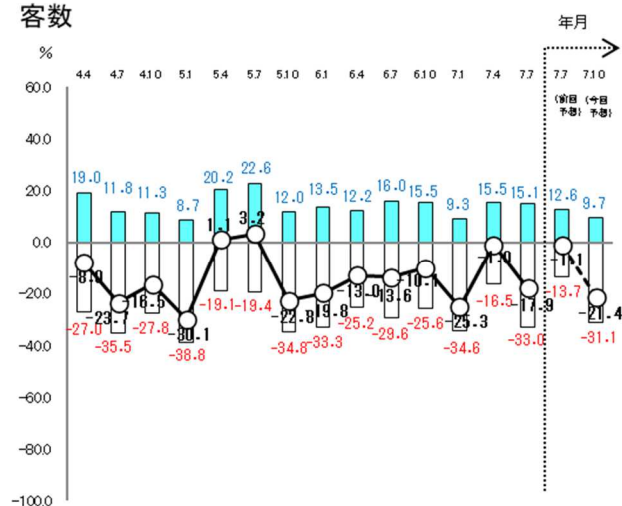
業況



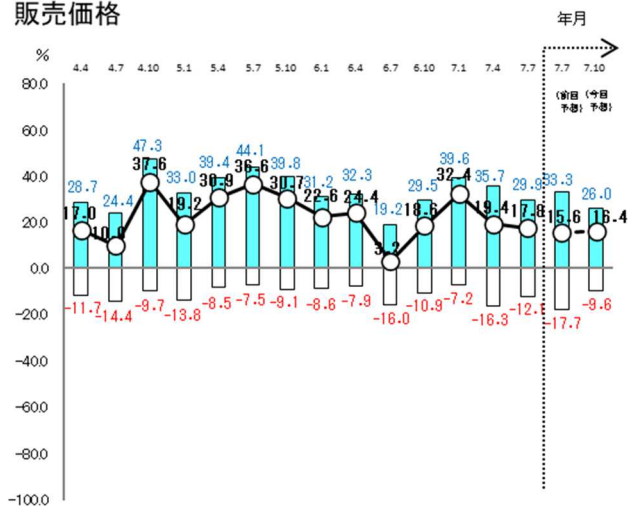
売上高



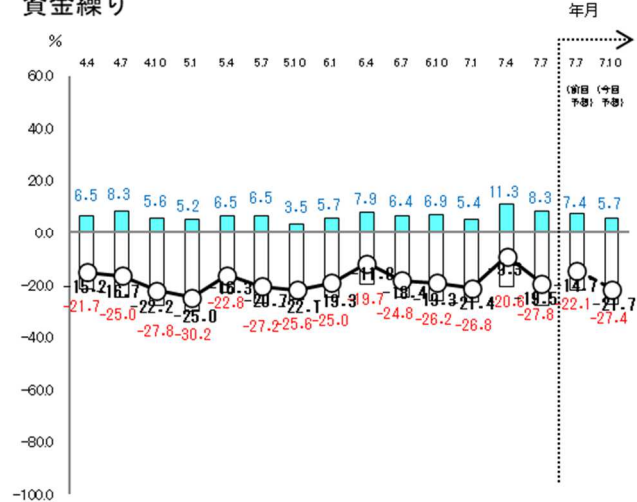
客数



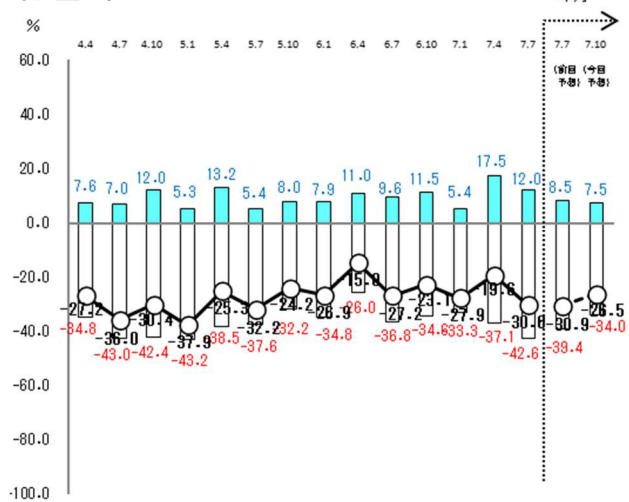
販売価格



資金繰り

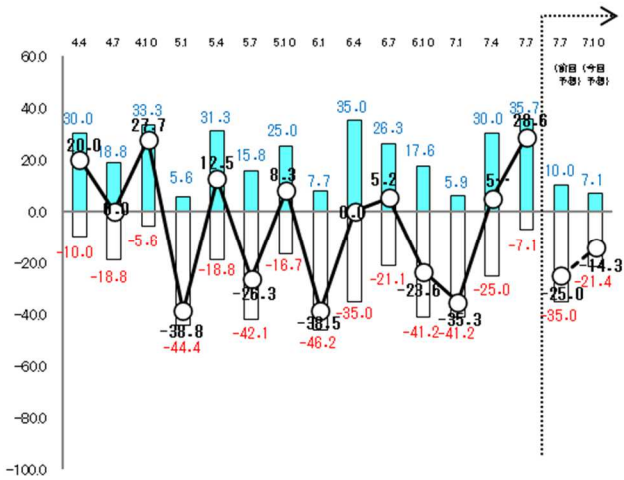


収益率

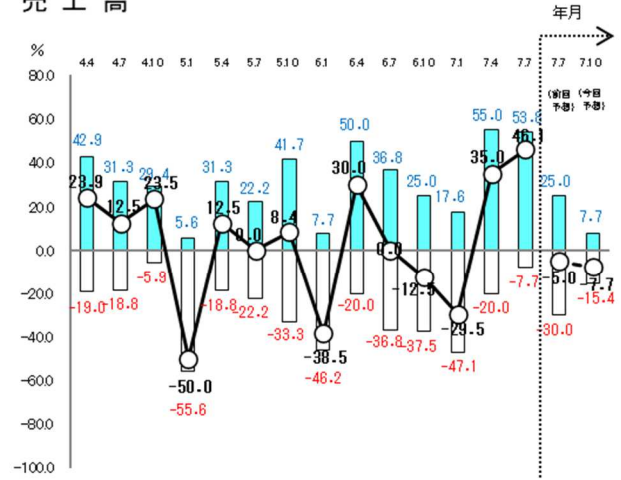


工 卸売業

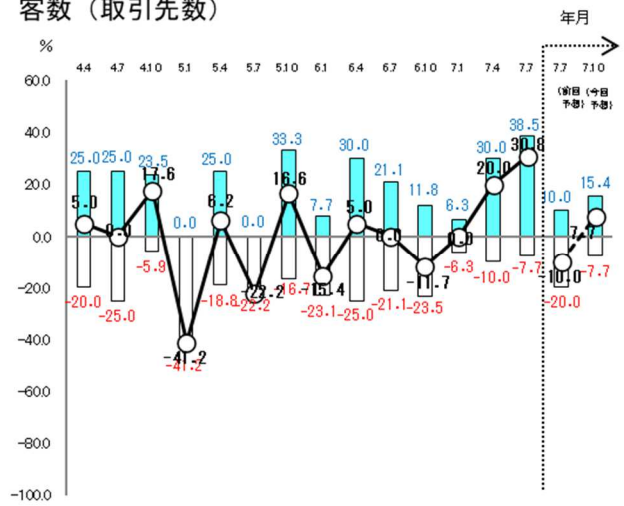
業況



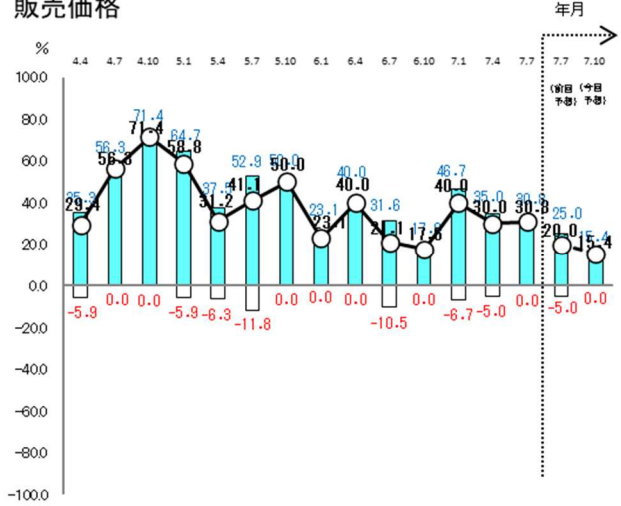
売上高



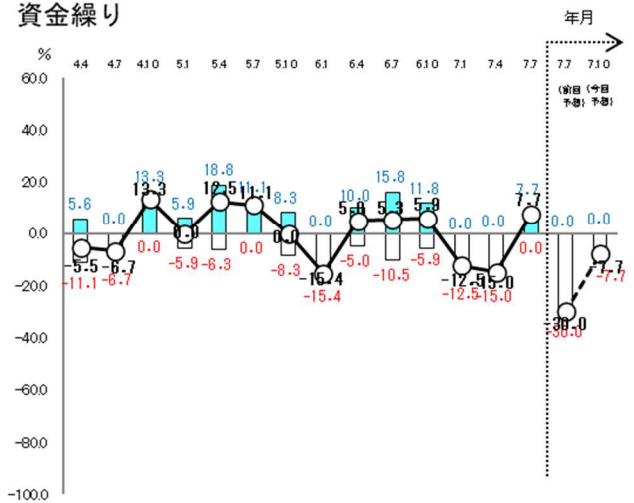
客数 (取引先数)



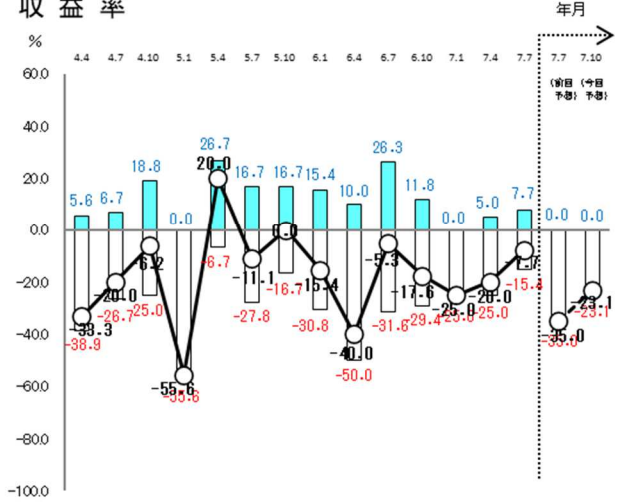
販売価格



資金繰り

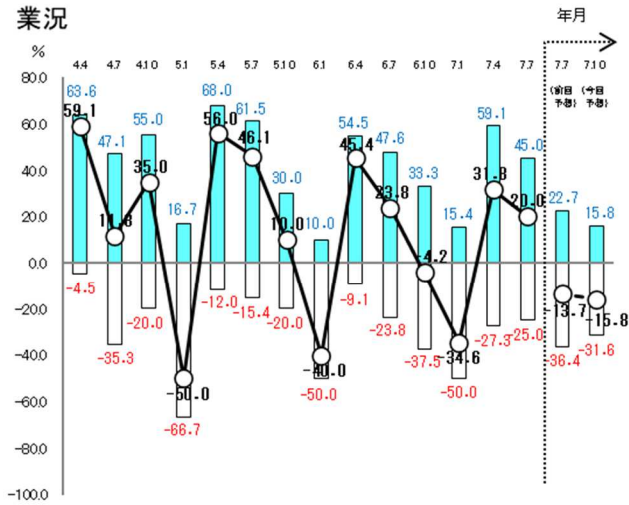


収益率

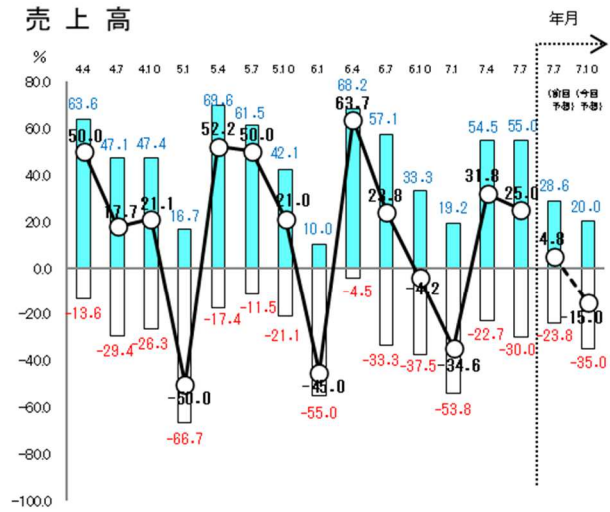


才 飲食業

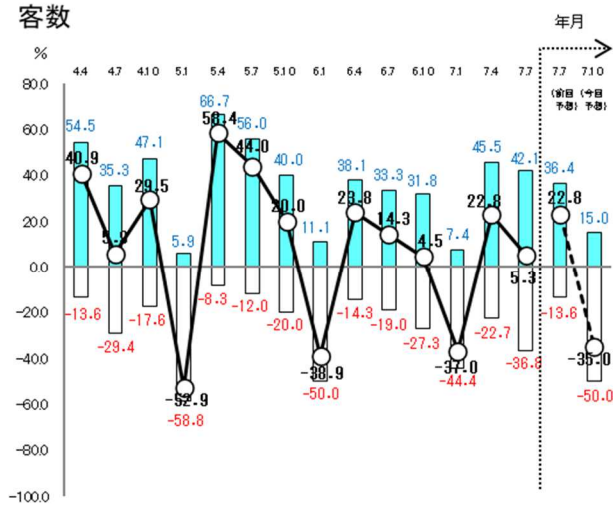
業況



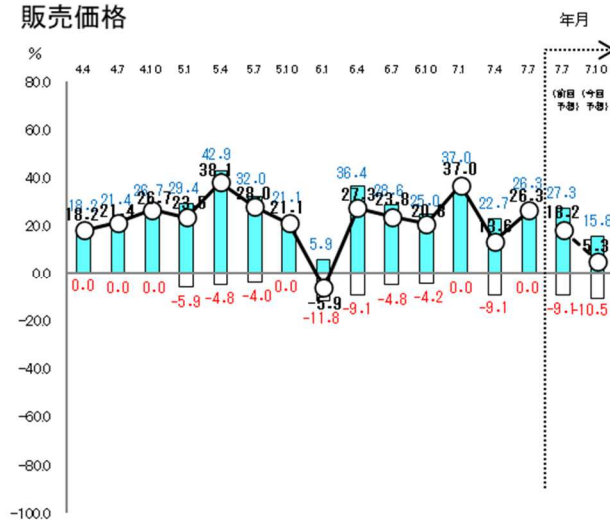
売上高



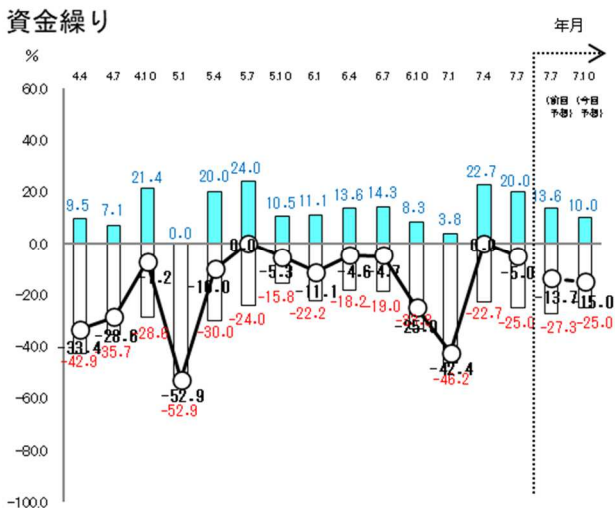
客数



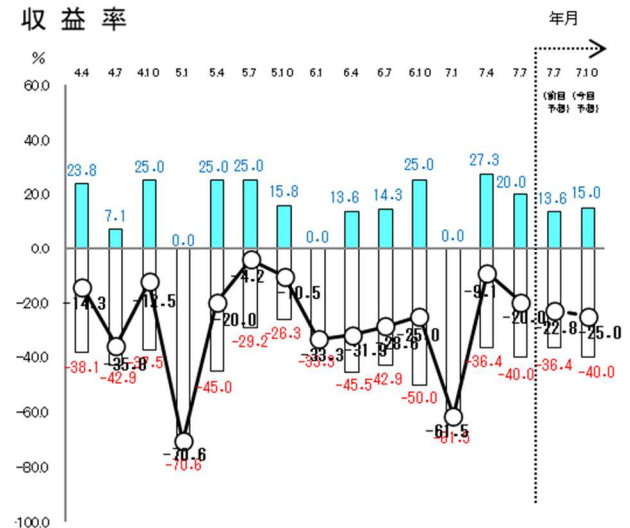
販売価格



資金繰り

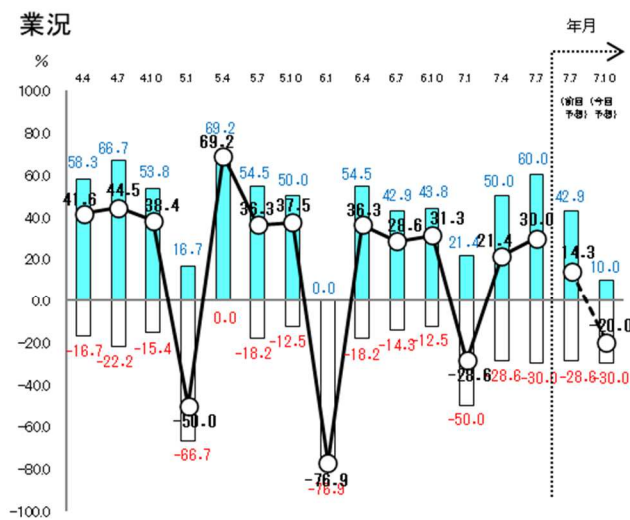


収益率

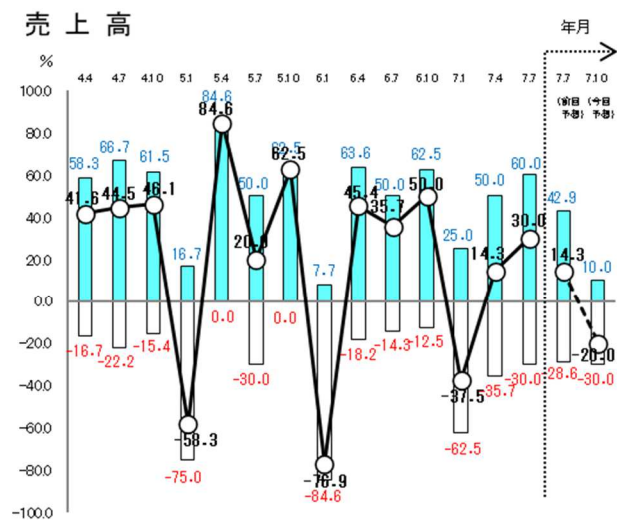


力 宿泊業

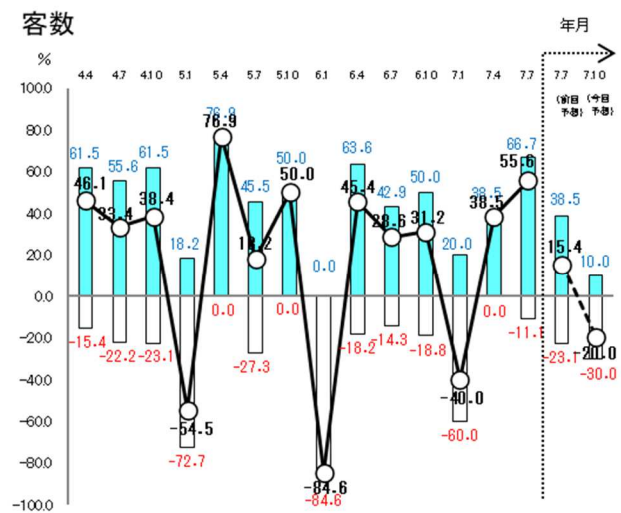
業況



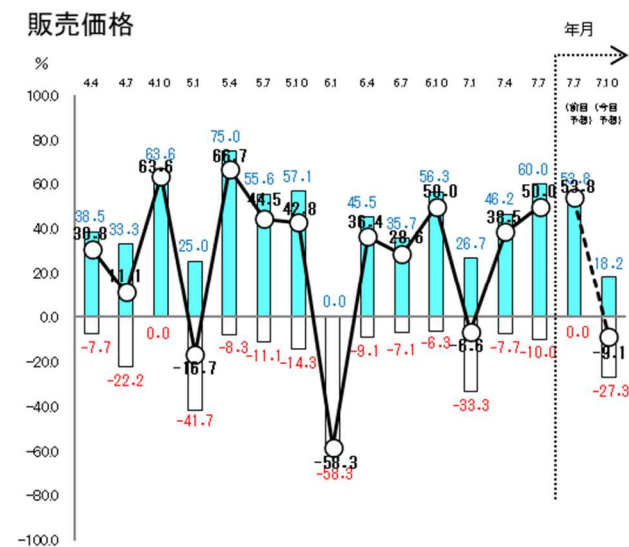
売上高



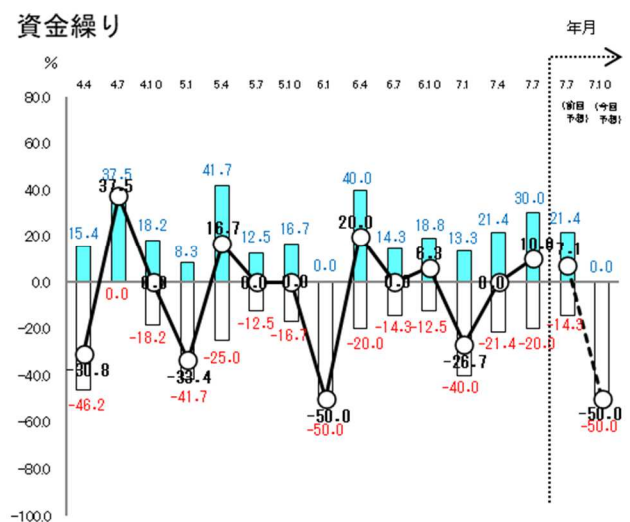
客数



販売価格



資金繰り



収益率

